

土地ヲ「リース」シ三分ノ一ハ往電第一六二号前段ノ方法ニ依リ法律ヲ evade シ居ルモノト認メラル現ニ合法ニ「リース」ヲ有スルモノノ約三分ノ一ハ本年中期限満了スヘシトノコトナリ本官ハ客月以來当地連絡日会法務部員ト共ニ当地付近数多ノ日本会ヲ巡歴シタルカ集会スルモノ頗ル多ク何レモ憂色ヲ湛ヘタリ其際彼等ノ意向ヲ聴取スルト同時ニ大山総領事宛貴電第九五号ノ趣旨ヲ説述敷衍シ法務委員等ハ差当リ必要ナル法律問題就中検事來訪ノ際ニ於ケル心得ヲ説明シ且彼等ノ質問ニ応セシメタルカ右巡視ノ際觀察シ得タル所ハ大体往電第一六二号報告ト同様ナルモ其他特ニ氣付キタル点左ノ通

一、排日熱ノ最強キハ日本人ノ最多ク居住スル「シアトル」ヲ含ム「キング、カウンチー」ニシテ此地方ニ於テハ排日検事ノ脅シ文句ニ応ジ「リース」ニ關シテハ日本人ノ立退ヲ迫リタル地主已ニ二、三十件ノ多キニ上リタル趣其他ノ日本人区域例ヘハ「タコマ」ヲ中心トスル「デアース、カウンチー」「ウインズロー」ヲ中心トスル「キサッブ」ニ於テハ未タ二、三件ニ過キス

二、排日ニ絶望シ日本ニ帰ラムトスルモノ無キニ非サレト

モ其数極メテ少ナシ大部分ハ何トカシテ危機ヲ脱シ子女カ市民権ヲ獲得スルカ若ハ彼等ニ有利ナル条約ノ締結セラルルヲ夢見ルモノ多シ前記立退ヲ迫ラレタルモノモ未タ其土地ヲ去ラス農場労働者トナルカ又ハ他ノ職業ニ転スヘキカニ付考慮中ナルモ生活ニ窮シ居ルモノ無キカ如シ然モ排日検事ハ来年早々日本農家ヲ歴訪檢挙スル積ナリト云ヘハ將來追出ヲ食フ日本人激増スル虞アリ

三、彼等ハ一律ニ現地ヲ離レ他地方ニ移住スルヲ好マス已ニ「リース」無キモノモ表面地主ト労働契約ヲ結ヒ月給ノ外ニ收穫ノ成績ニ依リテハ「ボーナス」ヲ払ヒ得ル規定ヲ定メ肥料ノ買入收穫物ノ売込等一切地主ノ名ニ於テシ右諸事實ヲ証拠立ツヘキ帳簿ヲ備ヘ一時ノ急ヲ免レムトスルモノ多ク(労働契約書式ハ日会ニ於テ近ク完了ノ筈)排日検事ハ右ハ労働契約ノ下ニ「リース」ヲ永続スルモノト為シ其内「テスト、ケース」ヲ起スヘシト云ヒ居レル由ナリ

四、更ニ当地日会ニ於テハ米人ヲシテ会社ヲ組織セシメ之ヲシテ地主ト已ニ切レ又將ニ切レムトスル「リース」ヲ契約シ日本人ハ之ニ所有ノ牛等ヲ適當ノ価額ニテ売り且会社ノ労働者トシテ働ク形式ヲ執リ事實上現狀ヲ維持セムトス

ル方法ヲ考慮中ナリ

当地方ハ加州ト異リ丁年ニ近キ米出生日本人数極メテ少ナク從ツテ未成年者ノ名ニ於テ土地ヲ所有スルモノ相当ニ多ク右ハ親ノ信託ニ依ルモノトシテ檢挙サルル憂アリ尚加州ト異リ收穫契約ナルモノ殆ト存セス会社ニ依ル土地所有モ極メテ少ナシ

五、土地法無キ他州ヨリ日本人ヲ「インヴァイト」スルモノボツボツアルモ唯旅費ヲ払ヒ土地ノ調査ニ行クモノ少シ在米大使及各領事ヘ郵送

3 雜件

六〇 一月十日 内田外務大臣ヨリ
在シアトル、ポートランド、
桑港、ロス・アンゼルス、ホ
ノルル各公館長宛(電報)

米國大審院帰化訴訟判決ノ在留邦人ヘノ影響、現行帰化手続法以前及ビ戰時帰化法ニヨル帰化人数等報告方訓電ノ件

合第三号

大審院ノ帰化判決ハ從來事実上帰化不能ノ状態ニアリタル

一 米國ニ於ケル日本人移民排斥問題 六〇 六一

在留邦人ニ對シ直接ノ影響ハナカルヘキモ之カ為人心動揺シ帰國其他將來ニ對スル計畫ヲ真面目ニ考量スル傾向ニシテ一般的且顯著ニ認メラルモノアリヤ該判決カ貴地方邦人ニ及ホセル影響ニ關シ概略一応本月廿日迄ニ回電シ其後詳細郵報アリタシ

尚現行帰化手続法制定前ニ帰化シタル者ノ数及戰時帰化法ニ依ル帰化人数並ニ是等ノ帰化人カ判決ニ依リ直接受クヘキ結果等貴館ノ関スル限り出来得レハ可成同時ニ電報アリタシ

六一 一月十三日 在桑港矢田總領事ヨリ
内田外務大臣宛

在米日本人會調査ニ依ル加州東洋人隔離教育ノ現状報告ノ件
機密公第四号 (二月十三日接受)

大正十二年一月十三日

在桑港

總領事 矢田 七太郎(印)

外務大臣伯爵 内田 康哉殿

加州日本學童隔離學校ニ関スル件

一 米國ニ於ケル日本人移民排斥問題 六一

本件ニ関シ大正十一年十二月六日付通移機密合第二四八号
貴信ヲ以テ御申越ノ趣敬承致候右調査方当地在米日本人会
ヘ依頼致置候処今般別紙写ノ如キ報告書提出越候ニ付供貴
覽候間詳細ハ右別紙ニ就キ御知悉相成様致度回答申進候

加州ニ於ケル東洋人隔離教育ノ現状報告

大正十二年一月十二日

在米日本人会書記長

滝本 為三

在桑港帝國總領事

矢田 七太郎殿

其一、サンフランシスコ市 オリエンタル、スクール

桑港市クランド街ヲ中心トスル在住支那人ノ兒女ヲ收容
シテ公立学校全級ノ課程ヲ教授ス邦人兒女中同校ニ就学
セルヲ聞カズ生徒数ハ約七八百人ニ達セン

其二、オークランド市 リンコン、スクール

日支両國人ノ兒女ハ英語ヲ解セザル者多数アリテ米國人
同様ノ公立学校ノ課程ヲ教習スルコト困難ナリ
従ッテ四学年級迄ハ特殊教育ヲ施ス次第ナリ
即チオークランド市ニ於テハ東洋人兒女ニ對シテ特ニ英

六二 一月十八日

在桑港矢田總領事ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

米國大審院歸化訴訟判決ノ在桑港總領事館管
轄内在留邦人ニ及ボセル影響等ニ関シ回報ノ
件

第一九号

(一月二十日接受)

貴電合第三号ニ関シ

当館管内ノ觀察左ノ如シ

(一) 歸化權(脱) 大審院ノ判決ハ寧ロ在留邦人ノ一般ニ予
期セシ所ナルカ如クナレハ之ニ依リ人心動揺スル等ノ事實
ナシ

(二) 現行歸化手續法制定前ニ歸化セシモノアルヲ聞カス若
シ之アリトスルモ三四名ニ過キサルヘシ戰時歸化法ニ依リ
歸化シタルモノノ数ハ正確ニ調査スルコト能ハサルモ布哇
ヨリノ転航者ヲ加ヘ三百五十名位アリト推算セラル

(三) 邦人ノ戰時歸化法ニ依ル歸化ハ該判決ニ依リ消滅スル
ヤ否ヤハ目下加州大審院ニ係争中ナル佐藤市藏事件ノ判決
如何ニ依リ決定セラル次第ナルカ若シ本件我方ノ敗訴ト
ナラハ(多分敗訴トナルヘシ)市民タル故ヲ以テ他邦人ノ
為ニ締結セル借地契約及農園移入契約ハ無効トナルヘシ是

一 米國ニ於ケル日本人移民排斥問題 六二 六三

七四

語ノ補習教育ヲ施ス目的ヲ以テ特殊学校ヲ設立セルニ外
ナラズ但シ四学年以上ハ米國人同様他ノ公立学校ニ分配
收容シツツアリ現在邦人兒女数約百数名支那人ハ倍数又
米國市民タル支那人女教師一名就職ス

其三、コートランド、オリエンタル、スクール

数年前ヨリ支那人兒女ノ為メニ隔離校舍ヲ設ケ主トシテ
支那人ヲ收容セルモ近年邦人兒女ノ数増加セル結果日本
人兒女ノ一部ヲモ收容シツツアリ其数約二十余名

其四、ワッソンビル市外隔離学校

学校ハ日本人國語学校ヲ其マ公立学校ニ使用シ邦人兒
女ノ為メニ公立学校ノ課程ヲ教授シツツアリ兒女ノ父兄
ハ三ヶ年以上同地方ニ定住セザルガ故ニ市ニ於テ特ニ新
校舍ヲ設立スルノ必要ヲ認メズトシ公立学校ガ設備不充
分ノ為メ邦人兒女ヲ收容スル能ハザルヲ理由トシテ一昨
年来分隔セル次第也

其五、ニューキャスル及ペンリン隔離教室

プラサ郡兩市ニ於テハ昨年来邦人兒女ヲ隔離教室ニ收容
シツツアリ其數明白ナラズ

以上

等諸契約ハ目下二百余件アリト察セラル

六三 一月十八日

在シアトル斎藤領事ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

米國大審院歸化訴訟判決ノシアトル領事館管
内在留邦人ニ及ボセル影響等ニ関シ報告ノ件

第一〇号

(二月二十日接受)

貴電合第三号ニ関シ

歸化判決ハ御来示ノ如ク事実上新事態ヲ惹起セザルノミナ
ラズ在留邦人ノ大部分ハ邦人側ニ勝味少キヲ認メ居リタル
關係上新判決ニ依リテ今更一般ニ浮足気分ヲ生ジタルノ事
實之レ無シ但邦人識者間ニハ此際米國ノ輿論ヲ動カシ又ハ
日本ノ輿論及当局ヲ勸メテ米國ニ於テ無差別的歸化法制定
ヲ促進セムトノ議アルモ未ダ具体的運動方法等ノ決定セル
モノナシ

尚当館管内ニ於テ現行歸化法制定前ニ歸化シタルモノ四名
内二名死亡右生存者二名ハ歸化訴訟關係者山下河野ナリ戰
時歸化ニ依ル歸化者ハ当地方ニ於テハ從軍者二名アルモ当
地方官憲ニ於テ行政手續上歸化ヲ許サザリシヲ以テ皆無ナ
リ

委細郵報

在米代理大使及桑港「ポートランド」「ホノルル」羅府へ
暗号ノ儘郵送セリ

六四 一月十九日 在ポートランド武田領事ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

米國大審院帰化訴訟判決ノポートランド領事
館管内在留邦人ニ及ボセル影響等ニ関シ回電
ノ件

第六号 （一月二十一日接受）

貴大臣宛在桑港總領事宛電報合第三号ニ関シ帰化否認ノ結果從來帰化ヲ認メラレタル者ガ爾今無効トセラルル虞アル外一般在留邦人ニ対スル直接影響無シ在留邦人ノ意嚮ニ付テハ格別變動ヲ認メザレ共多少精神の打撃アリ殊ニ当地米人が該判決ノ結果東洋人ハ到底異分子ニシテ之ニ差別的待遇ヲ与フルハ國是ナリトノ信念スラ有スルニ至リ州法及地方自治団体ノ命令ニ於テ各種「ライセンス」下付ニ市民トナリ得ルモノタルコトヲ条件トスルノ傾向一層顯著トナリ当市外國人間ノ米化運動機關タル「アメリカニゼーション・カウンシル」ニ於テモ爾來日支人ヲ該運動ヨリ除外ス

ルニ至レル等米人側ノ態度ガ邦人ヲシテ多少將來ヲ危惧スルニ至ラシメタルハ事實ナリ貴電後段ノ帰化邦人ハ取調中ナルモ目下ノ所當地方ニナシ

在米大使、桑港、「ホノルル」「ロス・アンゼルス」へ転電セリ

六五 一月二十日 在ホノルル山崎總領事ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

米國大審院帰化訴訟判決ノホノルル總領事館
管内在留邦人ニ及ボセル影響等ニ関シ回電ノ
件

第四号 （一月二十一日接受）

貴電合第三号ニ関シ
帰化判決ニ対シテハ当地在留民ハ甚冷淡ニシテ殆ど問題視シ居ラズ之從來帰化ハ不能ト思考シ居リシニ依ルモ亦仮令帰化シ得ルトスルモ帰化ヲ欲スル者ハ頗ル僅少ナルニ依ルモノナラン
次ニ現行帰化手續法制定前ニ帰化セシ者ハ当管内ニ勝沼富藏アルノミナリ同人ハ第一第二帰化証ヲ有スルモ米國官憲ハ同人ヲ帰化米人ト認メズ

布哇ニ於テ戰時帰化法ニ依リ帰化シタル日本人ハ三百六十六人小沢判決ガ之等帰化人ニ及ボス影響ハ当地ニ於テハ未ダ實際問題發生セザルヲ以テ未定ナルモ当地ニ於テ戰時帰化証ヲ獲得セル佐藤市藏ガ大正十年三月十二日加州裁判所ニ於テ市民権行使拒否ノ判決ヲ受ケ目下上告中ノ由ナルガ小沢ノ判決ガ本件ニ關係ヲ及ボスヤ否ヤ法律家ノ意見一致シ居ラズ
桑港「シアトル」及「ロス・アンゼルス」へ暗号ノ儘郵送セリ

六六 一月二十日 在ロス・アンゼルス大山領事ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

米國大審院帰化訴訟判決ノロス・アンゼルス
領事館管轄内在留邦人ニ及ボセル影響等ニ関
シ回電ノ件

第四号 （一月二十二日接受）

桑港總領事宛貴電合第三号ニ関シ
日本人ハ從來當國行政部其他一般ヨリ帰化権ナキモノトシテ待遇セラレツツアリタルノミナラズ大抵敗訴ヲ予期シ居リタル為該判決ハサシタル影響ヲ認メズ尤モ米人中從來ヨ

リモ一層日本人ヲ異分子トナシ又加州土地法ノ有効ナルコトヲ類推スルモノ少カラズ從ツテ本邦人ニ対シテモ多少精神の打撃ヲ加ヘタルコトハ免レ難シ又現行帰化法制定前帰化シタルモノ及戰時法ニ依リ當地ニテ帰化シタルモノ数名アルベク布哇ニテ戰時法ニ依リ帰化シ當地ニ転航シタルモノ相応多数アリ當地及付近ダケニテ約百名位アル見込ミナル模様確實ナル數ハ取調中
華府、桑港、「ポートランド」「シアトル」へ暗送シ「ホノルル」へ電報セリ

六七 一月二十四日 在桑港矢田總領事ヨリ
内田外務大臣宛

加州日本人問題解決ヲ目的トセル日米有志ノ
懇談会第十一回会合ニ於テ花嫁問題並ニ排日
諸法案等討議ノ模様報告ノ件

機密公第七号 （二月二十八日接受）

大正十二年一月二十四日

在桑港

總領事 矢田 七太郎（印）
外務大臣伯爵 内田 康哉殿

一 米國ニ於ケル日本人移民排斥問題 六八

日本人問題ニ対スル懇談会ニ関スル件

一月二十三日当地ニ於テ開催シタル本件第十一回会合ニ関シテハ同二十四日日本官発閣下宛電報第二六号^(註)及同第二七号ヲ以テ其大要及報告置候処今回ハ「マクラッチー」、「グリーンン」Dr. Doremus Scudder. 「ガイ」安孫子五氏ノ外、新ニ加州大学名誉総長 Benj. Ide Wheeler. 前東京基督青年会幹事 M. Davis 及日本宣教師 Dr. Davis ノ三氏モ列席シタルカ会議ノ模様左ノ如クナリシ趣ニ有之候

一、今回会合ニ於テモ花嫁問題カ再ヒ問題トナリタルカ、一同ノ意見ハ兩國間ニ於ケル特別条約又ハ米國移民法中ニ一條項ヲ挿入スル等ノ方法ニ依リ一定數ノ花嫁ノ入國ヲ許可スル事ニ関シ次回會議ニ於テ具体案ヲ討議スル事ニ一致シ、右ニ就キ先ツ目下加州在留邦人中成年独身男子ノ數幾何アルヤヲ知ルノ必要アルニ依リ右取調報告方「ガイ」安孫子兩氏ニ委嘱セリ

二、次ニ目下加州議會ヘ提出中ナル排日諸法案中(イ)土地法修正案ニ関シ「マクラッチー」ヨリ同案カ只名目及提出者ノミアリテ案文ノ未タ提出セラレサル理由ヲ説明シタル事ハ前記往電第二六号所報ノ通ナル処(ロ)同人ハ更ニ私

大正十二年一月二十四日

在ホノルル

總領事 山崎 馨一(印)

外務大臣伯爵 内田 康哉殿

小沢帰化判決ノ影響等ニ関シ報告ノ件

一、小沢帰化判決ノ在留民ニ対スル影響

本件ニ関シテハ一月二十日付拙電第四号ヲ以テ大要及報告候処從來当地在留日本人ハ一般米國ヘノ帰化不能ナルモノト思惟シ在留民ノ殆ト總テハ小沢ノ帰化訴訟ニ対シ寧ロ初メヨリ其勝訴ヲ予期シ居ラサルノ状態ナリシヲ以テ大審院今次ノ判決ニ対シテハ在留邦人ハ別ニ何等意外トセサルノミナラス仮令小沢ノ勝訴ニ帰スルト雖在留邦人中米國ニ帰化ヲ欲スル者ハ其數極メテ少數ナルヘキニ付御訓電ニ依ル人心ノ動搖又ハ帰國其他將來ニ対スル計画等ニ付影響セシコト毫モ無之候又当地米國人側ニ於テハ法曹家学者間等ニ於テ相当注意ヲ払ヒタルモ一般米人社会ニハ特ニ格別ノ反響無之當市朝刊アドバタイザー紙ハ同判決一ヶ月後ニシテ僅ニ之レカ短評(大正十一年十二月十三日付公第五一八号参照)ヲ試ミタルニ過キス候

一 米國ニ於ケル日本人移民排斥問題 六八

七八

立外國語學校取締法修正案ニ関シ同往電第二七号所報ノ如ク同法案ノ目的カ日本語教授禁止ニアラスシテ Teaching of Nationalism 禁止ニ在ルヲ以テ若シ同校ニシテ “Conducted wholly in English” ナラハ日本語ノ教授可能ナル旨並ニ Conducted wholly in English トハ啻ニ英語ヲ以テ日本語ヲ教授スルノミナラス學校全体ノ管理經營カ英語ヲ以テセサルヘカラサルコトヲ意味スル旨説明シタルカ右案文中 Conducted wholly in English ナル文字ノ意味カ不明瞭ナルト同様「マクラッチー」ノ之ニ関スル説明モ頗ル不明瞭ナルモノナリシ模様ナリ

三、次回会合ハ二月十一日開会スヘシ

右此段報告申進候 敬具

本信亨送付先 在米大使、大山領事

註 本書ニ五文書参照

六八 一月二十四日 在ホノルル山崎總領事ヨリ
内田外務大臣宛

米國大審院帰化訴訟判決ノホノルル總領事館
管内在留邦人ヘノ影響等ニ関シ詳報ノ件

公機密第七号 (二月十五日接受)

二、現行帰化手續法制定前帰化シタル者

現行帰化手續法制定前帰化シタル者當館内ニハ独リ勝沼富藏アルノミニシテ同人ハ千八百九十三年アイダホ州コールドウェル (Coldwell) 市ニ於テ第一帰化証ヲ而シテ一八九六年八月四日ユタ州ローガン市ニ於テ第二帰化証ヲ獲得セシ者ナルモ米國官憲ハ勝沼ヲ帰化米人ト認メス依テ米國官憲ノ勝沼ニ対スル從來ノ取扱振ヲ御参考迄左ニ記載致候

「千九百四年勝沼ガ日本ニ帰ラントスル際當県知事ハ勝沼ヲ米國市民トシ旅券ヲ發給シタルモ國務省ハ勝沼ノ帰化ヲ無効ナルモノトシ旅券ノ返納方ヲ命セシメシコトアリ又千九百七年本島ニテ公有地ノ払下ケヲ得ントシタル際縣當局ハ勝沼ヲ市民ニ非ストノ理由ノ下ニ其払下ヲ拒絶セシコトアリ而シテ縣知事ハ當市合衆國檢事ニ其事實ヲ通牒(別紙第一号)シ合衆國檢事ハ千九百七年十月華府檢事總長ニ対シ勝沼ノ帰化証取消ノ訴訟ヲ提起スヘキヤ否ヤヲ請訓(別紙第二号)シタルニ司法省ハ当地合衆國檢事ニ対シ積極的の行為ヲ取ルノ必要ナキ旨ヲ回訓(別紙第三号)セリ

勝沼ノユタ州ヨリ当地ニ來リタルハ千八百九十七年頃ニ

七九

一 米國ニ於ケル日本人移民排斥問題 六九

シテ當時布哇島ニ於テ公有地ヲ取得シ又千九百三、四年ノ頃當地ニ於テ文官試験ヲ受ケ以來當地移民局ニ勤務シ又一九一三年十月迄ハ市民タルコトヲ条件トスル結婚許可証ノ発行者タリシコトアリ

三、戰時帰化法ニ依ル帰化人数及小沢判決ノ此等帰化人ニ及ホス影響

布哇ニ於テ戰時帰化法ニ依リ帰化セシ日本人ハ三百六十六人(人名表別紙第四号)ナリ

而シテ小沢ノ判決カ此等帰化人ニ及ホス影響ニ付テハ當地ニ於テハ未タ何等實際問題發生セサルヲ以テ其影響範圍等今直ニ之レヲ記述スルヲ得スト雖モ當地ニ於テ戰時帰化証ヲ獲得セル佐藤市造カ大正十年三月十二日加州裁判所ニ於テ市民權行使拒否ノ判決ヲ受ケシ由ニテ加州裁判所判事ビナンク(C.O. Busick)ハ其判決ニ於テ同帰化法中ニ於ケル any alien トハ米國ニ帰化シ得ル外國人ノ意ニシテ帰化シ得サル日本人ハ同法ニ包含セラレサルモノト解シ佐藤ノ帰化ヲ認メサリシ趣ナリ尚佐藤ハ一九一八年五月制定ノ帰化法ニ基キ布哇県地方裁判所ボーン判事(Horace W. Vaughan)ノ判決ニ基キ帰化証(俗ニ戰時帰化証ト云ヒ最

八〇

終帰化証)ヲ獲得セシモノナルカ當時當地裁判所ニ於テ戰時帰化申請審理ノ際合衆國檢事ハ戰時帰化法ニ依ルモ日本人ハ帰化シ得ストノ意見ヲ主張シタル次第モアリ當地裁判所ハ其後日本人從軍者ノ同種帰化權獲得請願ヲ受付ケザル事實アリ要スルニ加州ニテハ佐藤事件ヲ小沢ノ判決ニ関連セシメ小沢ノ判決ニ依リ佐藤ハ自然市民權ヲ喪失セリトノ見解ヲ取ルモノ多カルヘキモ本件ニ付テハ當地法律家ノ意見一致シ居ラス

又新聞紙上伝フル所ニ依レハ桑港ニテハ嘗テ米國海軍ノ傭人ニシテ恩給受領ノ日本人カ小沢判決ノ影響ヲ蒙リ恩給ノ支給ヲ中止セラレシ由ナルモ當地ニ於テハ未タ斯ル實際問題發生セス然リト雖當地ニ於テモ早晚桑港同様何等カ影響可有之思料セラレ候

此段及報告候 敬具

本信写送付先 在米大使、桑港總領事、羅府、ポートランド、シアトル各領事

註 別紙第一号乃至第四号ヲ省略ス

六九 一月二十六日

在桑港矢田總領事ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

米國出生日本兒童ニ市民權ヲ賦与セザル米國

憲法修正決議案加州下院ニ提出ノ件

第三〇号

(一月二十八日接受)

一月二十四日「サクラメント・ビー」ハ「アメリカン・リジョン」ノ尻押シニテ下院議員 Frank Combs ガ米國出生日本兒童ニ市民權ヲ与ヘザル様合衆國憲法修正第一四条ノ修正ニ関シ決議案ヲ提出シ中央政府關係委員會ニ付託サレタル旨ヲ報ジ右決議案ノ全文ヲ掲載セリ其ノ要領左ノ如シ

合衆國憲法ハ人種文明ノ如何ニ拘ラズ米國出生兒ヲ以テ悉ク其ノ市民トナス結果米國文化ト同化セザル從ッテ米國ニ忠誠ヲ尽ス能ハザル市民ヲ作リツツアルヲ以テ各州議會ハ茲ニ米國市民タル資格付与ノ標準ヲ人種ノ同化不同化ニ基ク區別ニ置ク可キ時機到達セルモノト認ムル旨並ニ右目的達成ノ為合衆國憲法修正第一四条ノ第一項ノ冒頭 All persons ノ次ニ of white African and American Indian parents ナル文字ヲ挿入スル修正案ヲ加州選出合衆國上下兩院ニ「サジェスト」スベキ旨決議ス云々

在米大使及羅府ヘ電報セリ

一 米國ニ於ケル日本人移民排斥問題 七〇 七一

七〇 一月二十七日

在ロス・アンゼルス大山領事ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

ロス・アンゼルス領事館管内ニ居ル日本人歸化人員數報告ノ件

第六号

(一月二十九日接受)

貴電合第三号ニ関シ

更ニ取調ヘタル結果戰時法ニ依ル者米大陸ニ約十名其内南加州ニ四名布哇ニテ帰化セル者約四百五十内大半大陸ニ転航シタル模様ニテ其内約百五十名南加州ニ散在ス

華府、桑港「ポートランド」「シアトル」「ボノール」ヘ暗送セリ

七一 一月二十九日

在ロス・アンゼルス大山領事ヨリ
内田外務大臣宛

ロス・アンゼルス領事館管内ニ於テハ日本人學童ニ對スル隔離教育實施サレオラザル旨申進ノ件

公第二七号

(一月二十二日接受)

大正十二年一月二十九日

在ロスアンゼルス

八一

一 米國ニ於ケル日本人移民排斥問題 七二 七三

領事 大山 卯次郎(印)

外務大臣伯爵 内田 康哉殿

加州日本学童隔離学校ニ関スル件

本件ニ関シ客年十二月六日付通移機密合第二四八号貴信ヲ以テ御申越ノ趣敬承右ハ取調候処当管内ニ於テ現下日本学童ニ隔離教育ヲ施シ居ル学校皆無ニ有之候条同様御承知相成度此段回答申進候 敬具

本信写送付先 在米大使、在米各領事、ホノルル総領事

七二 二月九日

内田外務大臣ヨリ
在桑港矢田総領事宛(電報)

埴原大使ガ日本ハ米國ト新ニ移民問題ヲ協議

スル意思無シト語レリトノ新聞報道ニ同大使

ノ注意喚起ノ件

第一五号

埴原大使へ

貴官カ「ホノルル」ニ於テ米人記者ニ日本ハ紳士協約ニ満足シ新ニ移民問題ヲ米國ト協議スル意思ナキコトヲ語ラレタル趣新聞電報ニ見エ居ル処目下帰化権及移民問題ニ対スル日米両國民ノ神經頗ル敏感トナリ種々ノ臆測行ハルル際

八二

トテ過般予算總會ニ於ケル本大臣答弁ニ関スル訛伝訂正方ニ付佐分利ヘノ訓電為念山崎總領事ヲ經テ貴官ヘ転達シ置キタル様ノ次第ニテ御承知ノ通り本件ハ兩國ノ現状ニ鑑ミ頗ル「デリケート」ノモノナルモ此際我政府ニ於テ帰化権乃至移民問題ノ善後策ニ付今後何等ノ手段ヲモ講スル意思ヲ有セサル如キ誤解ノ西國民間ニ伝ハルコトハ充分是正シ置ク必要アルニ付前記新聞電報ハ誤伝ト思考セラルルモ御含迄電報ス右報道ニ関スル説明材料トシテ米人記者トノ談話要旨回電アリタシ

七三 二月十三日

在桑港矢田総領事ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

日米有志懇談会第十二回会合ニ於テ邦人花嫁

問題決議ノ件

第四三号

(二月十五日接受)

二月十一日第十二回日本人問題懇談会ニ於テ邦人花嫁問題ニ関シ満場一致ヲ以テ左ノ通決議ヲ為シ同十三日「シャールンバーク」ヨリ之ヲ埴原大使へ提出セリ

日本人問題解決ノ為日本ト新協約締結ノ日ヨリ五箇年間一箇年三千人ヲ越エザル花嫁合計一万五千人ノ入國ヲ許可シ

在米大使、羅府へ電報セリ

七五 二月十四日

在桑港矢田総領事ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

埴原大使着任ニ関スル桑港クロニクル紙ノ好

意的記事報告ノ件

第四五号

(二月十六日接受)

埴原大使ニ対スル当地米國側ノ歡迎振リ及同大使ノ發表セル意見等ハ新聞電報ニテ既ニ御承知ノコトト存ズル処十三日「クロニクル」ハ十二日ノ埴原大使歡迎会席上ニ於ケル「ワーレン」大使ノ演説ヲ引用シ日本ガ華府會議ノ諸条約ニ対シ忠実ナル履行者タルコトヲ示シ今ヤ亜細亞大陸ニ於テ一步ヲモ留メズ支那ヲシテ鞏固ナル政府ヲ樹立センメンガ為メ合衆國政府ト協力シツツアル旨ヲ記載シタルガ其後段ニ來テ埴原大使ニ対シ讚辭ヲ呈シ太平洋ノ経営ハ愈々良好ニ赴キツツアリ聽テ日米兩國ハ太平洋上ノ海軍問題ニ悩マサルコトナキニ至ル可キ旨ヲ述ベテ結論セリ

在米大使へ電報セリ

七六 二月十五日

在桑港矢田総領事ヨリ
内田外務大臣宛

八三

會議ノ模様郵送スベシ

一 米國ニ於ケル日本人移民排斥問題 七四 七五 七六

右五箇年經過後ハ絶対ニ其入國ヲ禁止スベシ之ト同時ニ同委員會ハ目下合衆國ハ正当ニ居住セル日本人ニ対シ充分ナル市民權ヲ与フル様運動スベシ

在米大使、羅府へ電報セリ

七四 二月十三日

在桑港矢田総領事ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

日米有志懇談会第十二回会合ニ於テパーセン

テージ移民法案上院不通過ノ予想ニ付マクラ

ツチー談話ノ件

第四四号

(二月十五日接受)

往電第四三号日本人問題懇談会席上ニ於テ「マクラツチー」ハ在華府同人派遣ノ通信員ヨリ上院議員「ハイラム・ジョンソン」ガ「パーセンテージ」移民法案ハ恐ラク今議會ヲ通過セザルベシ同案ハ或ハ下院ヲ通過スルヤモ知レズト雖モ上院ニ於テハ議案其物ノ「メリット」ニ対スル反対ヨリハ寧ロ他ニ議スベキ幾多ノ重要問題アル理由ニ依リ必ズ通過セザルベシト語リタル旨ノ電報ニ接シタル由語リタリトノ趣ナリ

日米有志懇談會第十二回會合ノ可決事項報告

ノ件

機密公第一三〇

(三月十日接受)

大正十二年二月十五日

在桑港

總領事 矢田 七太郎(印)

外務大臣伯爵 内田 康哉殿

二月十一日当地ニ於テ開催シタル第十二回會合ニ関シテハ十三日本官発閣下宛電報第四三三號同第四四號ヲ以テ其大要不取敢及報告置候処右會合出席者ハ「シャールンバルグ」「マクラッチ」「グリソンス」「ホースト」「エム・デーヴィス」「ドクター・デーヴィス」安孫子及「ガイ」ノ八名ニシテ右會議ニ於ケル可決事項ハ左ノ如クナリシ趣ニ有之候
(一)花嫁問題

安孫子及「ガイ」兩氏ヨリ兩氏ノ入手セル信憑シ得ヘキ資料ニ基キ入國ヲ許可スヘキ日本婦人ノ數ニ関シ報告アリタルカ右報告ニ依レハ將來入國許可ヲ要スヘキ員數ハ合計一万五千人右ノ内訳ハ左ノ通

(イ)米國ニ夫ヲ有スル日本在住ノ既婚婦人ノ數一万三千人

七七 二月二十三日

在ロス・アンゼルス大山領事ヨリ
内田外務大臣宛

ロス・アンゼルス領事館管内日本語学校ノ現

況調査報告ノ件

公第五七號

(三月二十八日接受)

大正十二年二月二十三日

在ロスアンゼルス

領事 大山 卯次郎(印)

外務大臣伯爵 内田 康哉殿

日本語学校ニ関スル件

本件ニ関シ客年十二月六日付通移機密合第二四九號貴信ヲ以テ御申越ノ趣敬承右ハ取調ノ結果別紙ノ通りニ有之候間御査閱相成度此段回答申進候 敬具

本信写送付先 在米大使沿岸各領事ホノルル領事

(別紙)

ロスアンゼルス領事館管内日本語学校ニ関スル調査

(大正十二年二月現在)

一、管内現在日本語学校ノ所在地別学校數

以上別表ノ通

二、(イ)各校ノ教員數學級別生徒數

一 米國ニ於ケル日本人移民排斥問題 七七

其内入國許可ヲ要スル員數ハ七千五百人

(ロ)入國許可ヲ要スヘキ花嫁數七千五百人

右ノ統計ニ基キ移民問題ノ公正ナル解決ヲ計ル為將來当然入國ヲ許可スヘキ員數ヲ既婚婦人七千五百人ヲ限り且日米兩國ノ新協約調印ノ日ヨリ五ヶ年以内ニ毎年入國數三千人ヲ限度トシテ呼寄ヲ為スヘキコト及右五ヶ年ノ期限經過後ハ絶對ニ入國ヲ禁止スルコトトシ同時ニ下名等ハ現在合衆国内ニ於テ合法ニ住居ヲ有スル日本人ニ對シ土地所有權、借地權、營業權等ノ私權ヲ完全ニ享有セシムルコトニ付キ尽力スヘキコトノ動議ヲ提出シ滿場一致可決決定シ該決議ヲ「シャールンバルグ」ヨリ埴原大使へ提出スルコトセリ
會議ノ終結ニ當リ「シャールンバルグ」ハ加州日本人問題ハ布哇ニ於ケル同問題ニ對スル適當ナル解決ニ俟タサル可カラス本會議ニ於テ可決シタル決議ノ如キ協定案ハ恰モ右布哇日本人問題ニ對シテモ適策ト認メラルル旨ヲ述へ滿場異議ナク同意シタリ

右報告申進候 敬具

本信写送付先 在米大使 大山領事

(ロ)教授科目、教授時間及教科書ハ州法ノ規定ニヨリテ取締ヲ受クルモノニシテ目下各學校共授業科目ハ日本語ノ読方、書方、綴方、話方トシ上級生ニ對シテハ英文和訳、和文英訳ヲ加フルコトアリ時間ハ公立學校ノ放課後トシ土曜日曜ノ二日ヲ除キ大抵毎日一時間一週五時間トス教科書ハ目下新読本編纂中ナルカ右結了迄我文部省編纂読本中加州々庁ノ認可ヲ受ケシ部分ノミヲ拔萃シテ教授ス

三、教員檢定試験舉行ノ場所ハ州庁所在地タル「サクラメント」ノ規定ナレトモ桑港、羅府等ハ受験者多數居住セル關係上特ニ試験官出張シ来ルコトトナリ居レリ受験者數ハ第一回(大正十年)及同補欠(大正十一年)ヲ合セテ總數二百二十名内合格者百六十五名不合格者四十六名條件付合格者九名ニシテ成績良好ナレトモ右合格者中三分ノ二ハ日本語ニテ又三分ノ一ハ英語ニテ受験シタルモノナリ

四、次回試験期日ハ未タ確定セサレトモ当局ニテハ大正十二年九月中執行ノ予定ナリト言明シ居レリ試験科目ハ第一回ニハ單ニ米國ノ歴史及法制ノ大意ヲ課シタルノミナ

レトモ本年度ヨリハ英語ノ解釈、書取、会話ヲモ課スト
同時ニ全科英語ヲ以テ答案ヲ作製セシムルコトナリタ
ルニヨリ日本語受験者ハ受験不可能トナルヘク從テ受験
者数モ激減シ恐ラク二三十名ヲ出テサルヘシト思ハル其
ノ試験成績ニ関シテハ今ヨリ予想スル能ハス

五、事情右ノ如クナルヲ以テ将来ニ於ケル日本語学校教員
ノ補充ニ関シテハ日本語ノ受験不可能トナリシ代リニ米
国出生ノ邦人男女ニシテ「ハイススクール」以上ノ卒業
者相当多数ニ上リ是等ハ悉ク無試験ニテ教員免許狀ヲ下付
セラルレトモ彼等ハ日本語ノ素養ニ乏キカ故ニ特ニ日本
語学校教員タルニ適セス此ノ点第一回ノ日本語受験者ノ
多クカ本邦ニ於ケル中等学校又ハ師範学校以上ノ卒業
者タリシニ比シ格段ノ差アリ故ニ今後ノ教員志望者ハ日英
両語ニ精通スルコトヲ要スル次第ナルカ右ノ如キ資格
アルモノヲ需ムルコト困難ナリ尤モ最近本邦ニテ高等教育
ヲ受ケシモノニシテ米國ノ大学ヲ卒業シタルモノ及布哇
生ニシテ一旦米國ノ普通教育ヲ卒ヘタル後帰朝シテ本邦
ノ高等教育ヲ受ケ再渡米セル少数ノモノアレトモ彼等ハ
現在日本語學園ノ教員俸給力極メテ少額ナルニヨリ到底

永統勤務ノ見込ナク将来ニ於ケル教員補充ハ次第二困難
トナルヘシト思ハル

六、日本語学校ノ取締法ハ米國教育ノ真髓タル米化主義ニ
基キ制定セラレタルモノナルヲ以テ布哇ニ於テハ曩ニ米
國公立学校ノ第一学年ノ卒業生ニアラサレハ日本語学校
ノ一学年ニ入ラシメス爾後年ヲ追フテ日本語学校ニ入ル
児童ノ公立学校ニ於ケル学年ヲ引上ケ千九百二十六年以
後ニハ米國小学校ノ三学年ヲ卒業シタルモノニアラサレ
ハ日本語学校ニ入ルコトヲ禁スルコトナシタルカ今期
加州議會ニ於テモ略是ト同一ノ議案提出サレアルノミナ
ラス排日家ノ有力者ハ日本語ハ結局英語ヲ以テ教授スル
ニアラサレハ之レヲ許可セサルヲ可トスト唱ヘツツアル
等ノ事情モアレハ日本語学校ノ経営ハ漸次困難ヲ増スニ
至ルモノト予想セサルヲ得ス

七、最後ニ一言スヘキハ是等日本語学校ハ二重ノ目的ヲ有
スルモノニシテ一ハ日本語ヲ教授スルト同時ニ他ハ家庭
ノ代理者トシテ児童ノ保護ニ任シ是ニ善良ナル遊戲ヲ授
ケントスルモノニシテ校庭ニ遊戲場ヲ設ケ米國公立学校
ヨリノ放課後日本人ノ児童ヲ收容シ各學級ニ応シ順次ニ

約一時間丈ケ教室ニ呼ヒ入レ日本語ヲ教授シ其他ノ時間
ハ全部各自ノ希望ニ任シ自由ニ遊戲セシムルモノナルカ
多数在留民ノ家庭カ児童ノ保護者トシテ甚タ不満足ナル
実情ニ鑑ミ是等日本語学校カ語學ノ教育以外ニ家庭ノ代
理者トシテ大ナル意義ヲ有スルモノナルコトハ大ニ注意
ヲ要スルトコロナリトス從テ今後若シ日本語学校カ語學

教授ノ場所トシテ廃止セラルルコトアリトスルモ家庭ノ
代理者トシテハ現在ノ形ニ於テ或ハ他ノ形ニ於テ必ス保
存セラルヘク又保存セサルヘカラス然レトモ学校ト分離
シテ經營スルコトハ經濟上極メテ困難ナルヘシト想像セ
ラル

以上

(別表)

(大正十二年二月現在)

地名		学校数	教員数		学級別生徒数									
ロサンゼルス市	羅府第一学園	米人 日人 女 女 男 四 二 三	女 男 四 五 〇 〇	二 一 四 八	一年	二年	三年	四年	五年	六年	七年	八年	九年	計
"	" 第二学園	日人 女 二	女 男 ナシ	一 〇 六	一 九 七	一 六 三	一 二 〇	一 一 四	一 一 四	一 三 五	一 九 二	一 三 三	一 二 〇	一 六 四
"	" 第三学園	日人 女 四	女 男 二 一 八 四	一 〇 八	一 〇 六	二 四	六 三	ナシ	三 四	二 一	ナシ	一 四	二 一	二 二 四
"	" 第四学園	日人 女 二	女 男 ナシ	八 五	五 七	三 四	三 六	ナシ	四 五	一 二	二 一			二 三 〇
"	セントフランシスザイヴエー学園	米人 日人 女 女 男 二 二	女 男 四 五 九 九	二 二 七	五 六	一 六 〇	五 八	三 四	三 四	六 一				一 一 〇 一 五
"	ハリウッド第一学園	米人 日人 女 女 男 二 一 一	女 男 一 七 一 七	一 年ヨリ八年迄									一 七 三	二 二 八 〇

ロサンゼルス市	聖公会学園	日人 米人	男女 男女	男一〇 女一五	一年ヨリ三年迄	二二 二五
ロサンゼルス郡	サンガブリエル平原 日本人学園	日人	男女	一年ヨリ六年迄	六〇	二七
ボルドウィンパーク	日本人学園	日人	男	一年ヨリ四年迄	二七	二七
モンテペロ	日本人学園	日人	男女	男女ナシ	二四 一七	一三 一六
モネタ	日本人学園	日人	男女	一年ヨリ六年迄	二四 一七	一三 一六
ガイデナ	日本人学園	日人	男女	男女九五	一年ヨリ七年迄	五五 五五
ロングビーチ	日本人学園	日人	男女	男女二四	三一 一六	七 一
オレンヂ郡	スメルザ 日本人学園	日人	男	一年ヨリ七年迄	三一 一六	七 一
ペンチユラ郡	オクスナード 日本人学園	日人	男	一年ヨリ八年迄	三一 一六	七 一
サンタバーバラ郡	ガタループ 日本人学園	日人	男女	一年ヨリ六年迄	三一 一六	七 一
合計	学園数 一七	日人 米人	男女 男女	男三二六 女三二九	補習科 生徒男女数 一、〇七二	一、三六 一、六七

右ノ内米人教員ハ幼稚科担当

七八 三月十六日 在桑港矢田総領事ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

帰化不能外国人ノ移住禁止ヲ目的ノ現行移民
法修正合同決議案加州上院ニ提出ノ件

第五七号 (三月十八日接受)

三月十六日發行「エグザミナー」ニ依レハ上院議員 Sharkey
ハ十五日要領左ノ通りノ合同決議案ヲ提出シ直ニ委員付託
トナリタル由

現行移民法ノ間隙ニ乗シ同化不能ノ移民カ統々来航スルハ
米國ノ社会制度ヲ紊スモノニシテ吾人ト利害關係ヲ異ニス
ル帰化権ナキ外国人ノ移住ニ依ル社会制度ニ対スル脅威並
ニ市民資格ノ低下ヲ防止セムカ為ニ是等市民権ナキ外国人
ノ移住及永住ヲ適法ニ禁止スル目的ヲ以テ現行移民法ノ修
正ヲ決議ス

大使 羅府ヘ電報セリ

七九 三月二十四日 在シアトル齋藤領事ヨリ
内田外務大臣宛

日米通商航海条約改締ニ際シ我國民ニ欧州諸
國民ト同等ノ權利確保方ヲ請願セル北米日本
一 米國ニ於ケル日本人移民排斥問題 七八 七九

人会陳情書送付ノ件
付屬書 右陳情書

公第九六号 (四月二十四日接受)
大正十二年三月二十四日

在シアトル

領事 齋藤 博(印)

外務大臣伯爵 内田 康哉殿

米國內ニ於ケル排日ニ関シ北米日本人会陳情書送
付ノ件

在シアトル市北米日本人会ハ米國內ニ於ケル排日ニ関シ同
会ノ決議ニ基キ外務大臣並在米特命全權大使宛陳情書本官
ヲ通ジテ提出方依頼有之候ニ付右別紙及御送付候 敬具
(付屬書)

北米日本人会陳情書

合衆國ニ於ケル排日ハ曩ニカリフォルニア州ニ端ヲ發シ延
イテ当ワシントン州並ニオレゴン州モンタナ州ニ及ホシタ
ル狀況ハ所管總領事若クハ領事ヨリ申報セラレ其顛末ノ詳
細ハ既ニ御諒知ノコトト被察候今ニシテ之ヲ阻止スルニア
ラサレハ彼等ハ一層排日ヲ擴大セントスルト同時ニ在留民
ヲシテ倍々窮地ニ陥ラシムルニ至ルヘキヲ恐ル茲ニ於テ我

カ北米日本人会ハ本年二月二十六日別紙ノ決議ヲ為シ閣下ニ陳情スヘキヲ以テセリ冀クハ決議ノ趣旨ヲ貫徹セラルヘク御配慮ヲ煩シ度此段陳情致候也

大正十二年三月二十三日

北米合衆国シアトル市

北米日本人会長 伊東 忠三郎(印)

外務大臣伯爵 内田 康哉殿

大正十二年二月二十二日北米日本人会ハシアトル市日本館ホールニ於テ春季定期總會ヲ開会シ本年七月十七日ヲ以テ満期トナルヘキ日米通商条約改締ノ機會ニ際シ我カ帝国外務大臣並駐米帝国大使ニ對シ在留民ノ意志ト希望トヲ開陳シ一ツハ日米国交親善ノ維持ニ、一ツハ我カ民族海外發展上歐洲諸國民ト同等ナル權利ノ確保サルヘキ條約ノ改締ヲ希望シ茲ニ決議文及其理由ヲ提出シテ我カ当局ノ一考ヲ煩ハシ之レカ實現ニ努力尽瘁アラムコトヲ請願スヘク左ノ決議ヲ為ス

決議文

北米日本人会ハ我カ政府当局ヲシテ北米合衆国中央政府ニ對シ一部米國民ノ人種的僻見ヨリ区别的待遇ヲ法律のニ強

制シ敢テ在米同胞ヲ驅逐セント企テ吾人ノ權利アル生活ヲモ其根底ヨリ覆サントスル太平洋沿岸諸州ノ排日法ヨリ來ル区别的待遇ヲ撤廃セシメ正当ニ入国シ國法ヲ遵奉シ正業ニ従事スル在留日本人ニ對シテハ一般在米歐洲諸國民ニ對スルト同等ナル權利ヲ保障セシムコトヲ期ス

右決議ス

大正十二年二月二十六日

北米日本人会春季定期總會

決議理由

在米同胞ニ對スル米國ノ排斥モ過去約二十ヶ年ニ涉リ一日モ休セス小ヨリ大ニ皮相ヨリ根底ニ立チ入り最早背水ノ陣ヲ布イテ我カ運命ヲ決スルノ外途ナキニ至レリ顧ミレハ勞働者ノ排日ニ始マリ同業者間ノ排斥ニ移リタルカ彼我相融和シ若クハ排斥ノ理由薄弱ニヨリ其口実ヲ失フニ至リテ終ニハ日本人ハ優秀ナル移民ノ故ヲ以テ白人種ノ脅威ナリトシ彼ノ在郷軍人團ノ如キ一味ノ徒党ト提携シテ太平洋沿岸諸州ノ日本侵略ヲ防キ米國ノ保全ヲ期セムニハ今日ニ於テ在米日本人ヲ根絶スルニ若カスト唱道シ諸種ノ排日法案ヲ作製シ第一土地所有權或ハ農園

借地權等ヲ奪ヒ引続キ其他種々ナル職業商業權ヲモ褫奪セムトシ近クハ憲法ヲ修正シテ日系米國兒童ノ市民權サヘ剝奪セント企ツルニ至レリ

殊ニ昨年十一月十三日米國大審院カ日本人ニ對シ歸化權ノ否認判決ヲ下セシ以來益々排日勢力ヲ強メ歸化シ得サル外國人云々ヲ標榜シテ種々ノ法規ヲ設ケ産業上ニモ就働上ニモ吾人ヲ窮追シテ死地ニ陥レスンハ止マサルノ態度ニ出テ已ニ吾人ハ日常生活ノ安定ヲ危フスルニ至レリ同時ニ吾人ノ受クル屈辱の迫害モサルコトナカラ一面國交ヲ無視シ正義人道ヲ省ミス威嚇の態度ヲ以テ此排日主義ヲ實行スルニ至リテハ我カ帝國ノ威信ニモ関シ尚將來日米通商ノ進運ヲ阻害シ兩國ノ親善ヲ損傷スルニ至ルヤ必セリ寔ニ憂慮セサラント欲スルモ能ハサル所ナリ

若シ斯ノ如クニシテ荏苒歳ヲ重ネンカ吾人カ過去三十年來幾多ノ困難ニ際会シテ千辛万苦克ク今日ノ基礎ヲ築キタル其根底ヲ一朝ニシテ失フニ至ラン我カ外交ノ不振ハ徒ラニ米國ニ追従スルニ止ラス臆テハ墨國南米其他將來我民族ノ海外發展地ト目スル諸外國ヨリモ同一轍ノ排日策ヲ以テ其門戸ヲ閉鎖サルルニ至ルヤモ不図実ニ今

一 米國ニ於ケル日本人移民排斥問題 八〇

日ノ我カ態度ノ如何ハ將來帝國ノ海外發展上再ヒ拭フヘカラサル一大恨事ヲ遺スニ至ル無キヲ保セス之レ實ニ吾人ノ默過スル能ハサル所ナリ

故ニ本年七月十七日満期トナル日米通商條約改締ノ機會ニ際シ埴原大使ノ新任ヲ機トシ我カ對米外交上一新機軸ヲ画シ正義人道ノ上ヨリ正々堂々ト主張スヘキ權利ハ飽迄之ヲ主張シテ米國ヲシテ讓歩セシムヘキ點ハ飽迄讓歩セシムヘク斯クシテ歸化權ノ有無ニ拘ラス吾人在留同胞カ最惠國民トシテ歐洲一般諸國民ト同等ナル權利ヲ保障スヘキ明文ヲ其一項ニ加フル條約ノ改締ニ努力サレムコトヲ我カ當局ニ對シ熱望シテ止マス之レ本總會ニ於テ右決議文ヲ通過シ日米問題ニ関シ帝國外務大臣並ニ駐米大使ニ對シ請願セントスル理由ナリ

八〇 三月二十七日

在桑港矢田總領事ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

米國出生日本兒童ニ市民權ヲ与ヘザル米國憲法修正決議案加州下院本會議ニ於テ全院一致通過ノ件

第六四号

(三月三十一日接受)

往電第三〇号ニ関シ

「サクラメント」発新聞通信ニ依レハ右決議案ハ三月二十六日下院本会議ニ付セラレ提出者 Frank Coombs ノ在加州米国生レ日本児童ノ激増カ米国民ヲ威嚇シツツアル旨ノ演説アリタル後全院一致可決通過セル由

大使 羅府ヘ電報セリ

八一 三月二十八日

在桑港矢田總領事ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

日米有志懇談会決議ヲ機ニ日米新協約締結方
ヲ壇原大使へ進言シ度キ旨シャーレンバーク

ヨリ申出ノ件

第六六号

(三月三十日接受)

本官発在米大使宛電報

第五七号

往電第三五号ニ関シ

両三日前「シャーレンベルグ」ハ「ガイ」ヲ通ジ今回ノ学校取締案ハ元々中央政府ノ注意ヲ喚起スル為ニ提出サレタルモノナレバ其公正ノ案(脱)アラザルハ我等モ之ヲ知レリ労働組合モ自分等ノ苦心ニテ愈々日米懇談会決議案ノ程

度迄譲歩シ日本人絶対禁止ヲ抛棄シタル次第ナレバ日米兩國ニテ此ノ機会ヲ利用シ新協約ヲ締結スルコトヲ切望ス然ラザレバ我等ハ引続キ排日案ヲ提出其他ノ「アデテーショ」ヲ行ヒ中央政府ヲシテ何等カノ措置ヲ取ラシメザレバ已マザルベシ労働党側ハ前記決議ノ趣旨ヲ骨子トセル新条約成立スレバ満足スベク從ツテ一切ノ排日的煽動ハ終熄スベシト信ズ(布哇ニ関シテハ自分再ビ出張シ加州ニ於ケルガ如ク日本人側ト入国許可数ノ協定ヲ作リタシト存ズ)就テハ州会閉会後自分ハ懇談会ノ一名ト共ニ華府ニ赴キ右新協約ノ締結ヲ見ル様壇原大使ヲ訪ヒ且「ゴンパース」及國務省側トモ懇談ヲ遂ゲタキニ付同大使ノ意向及都合問合セ方本官ニ申出デタリ

右ハ日米了解当初ノ趣旨ヨリ一步ヲ踏ミ出シタルモノニシテ慎重ノ考慮ヲ期スベシト存ズルモ「シャ」ハ閣下当地御通過ノ際充分会談ノ機無カリシコトヲ啣チ居ル由ニテモアリ一応其意見ヲ聴取セラルルモ差支ナカルベキカト愚考ス御意見御回答ヲ請フ

尚「ガイ」自身「シャ」ト同行ヲ希望シ居ル口吻ナルガ「ガイ」ニ対シテハ旅費支給ノ必要アル処若シ何等カ疑惑

ヲ受ケザル名目アラバ同人ニ対シ其日米懇談会ニ於ケル努力及今回ノ学校案ニ関スル尽力等ヲ「アプレシエート」スル意味ニテ費用ヲ与フルモ差支ナカルベシト存ズ

外務大臣ヘ電報セリ

八二 四月六日

在桑港矢田總領事ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

シャーレンバークヨリノ会談申込ニ付予メ日

米有志懇談会決議事項ニ対スル本省意向承知

シ度キ旨壇原大使ヨリ内田外務大臣ヘ稟請ノ

件

第七七号

(四月八日接受)

在米大使発本官宛電報

第七一号

外務大臣ヘ電報アリタシ

第二二七号

桑港總領事発本使宛電報第五七号「シャーレンベルグ」トノ会談ハ先方ヨリ申込ミアル以上本使ニ於テ之ヲ回避スルコトハ面白カラス寧ロ或点迄ハ進ミテ接触ヲ保ツ様ニスルコト或ハ有利カト思考セラルルモ愈々同人ト会談ノ上成ル

一 米國ニ於ケル日本人移民排斥問題 八二 八三

可ク「コミット」セサル程度ニ於テ相当意見ヲ開披スルノ必要モ有之ヘシト認メラルル処同人トノ応酬上所謂懇談会決議事項ニ対スル本省ノ御意向ヲ前以テ承知シ置クヲ得ハ甚タ好都合ト存スルニ付本使心得迄ニ大体ナリトモ御意向至急電報アリタク其上ニテ同人ヘノ挨拶方ヲ決シ度キ所存ナリ尚本使一己ノ所見トシテハ該決議事項ノ趣旨ハ事実如何ナル点迄具体化シ得ルヤ更ニ研究ヲ要スヘキモ当面ノ問題解決策トシテハ一案ナランカトモ思考シ居ル次第ナリ

八三 四月二十五日

内田外務大臣ヨリ
在桑港矢田總領事宛(電報)

壇原大使ノシャーレンバークトノ会談ニ関シ

外務大臣ヨリ壇原大使ヘ訓令ノ件

第三三号

在米大使ヘ電報アリタシ

大使宛第二〇九号

貴電第二二七号ニ関シ

日米間移民問題並在米日本人待遇問題ニ関シテハ御承知ノ通当方ニ於テ夙ニ顧念ヲ怠ラス之カ適當ノ解決案ヲ得ル為常ニ苦心シ居ル次第ナル処所謂懇談会ノ決議ハ局面展開ニ

利用シ得ヘキヤニモ思考セラレ一個ノ思付ニハ相違ナキモ差別待遇ノ撤廃及防止ニ付何等具体的方法ヲ示サザル等尚重要ナル欠点モアリ政府トシテハ未タ俄ニ之ニ對シ賛否ノ意向ヲ表示シ難キニ付右ニ御承知ノ上「シャレンバーグ」トハ可然好意的接觸ヲ保タレ同氏ト会谈ニ當リテハ貴官限リニ於テ臨機適當ニ応酬セラレ前記差別待遇ノ撤廃方法其他ニ関スル先方ノ意向態度等ヲ篤ト觀察セラレタル上其結果貴見ト共ニ報告アリタシ

註 左掲ハ廢案トナリシモノ

第 号 (廢案)

貴電第二二七号ニ関シ

一、懇談会ヲ組織スル人士ハ何レモ單ナル一個人ノ資格ニ於テ之ニ参加セルニ不過從テ其決議ナルモノハ如何ナル程度迄実行力アリヤ甚タ頼ナキ次第ナルノミナラス其決議ノ内容ハ移民制限ノ点ノミニ重キヲ措キ土地法其他差別的待遇ノ撤廃及防止ノ方策ニ付何等具体的提案ナキ処我方トシテハ寧ロ後者ヲ重要視シ居ルモノニシテ幣原「モリス」協議ノ際ニモ此点ニ付最も多クノ考量ヲ費シタル次第ニ付差別撤廃問題ニ関シ何等カ実行可能ナル具体案ノ提示アルニ非サレハ之ニ對シ直ニ賛否ノ意ヲ表シ難シ

二、移民制限ノ形式ニ関シテハ懇談会ニ於テ条約ニ依ルヘ

不利益ヲ蒙ルコト稀ナラス故ニ之ヲ改竊シ何等カノ形式ニ由リ周知セシムルコトトセハ從來ノ非難攻撃ノ大部分ヲ除去スルヲ得ヘシト思考セラル

四、懇談会決議ニ對スル当方ノ意見ハ大体叙上ノ通ナルモ更ニ他ノ方面ヨリ見ルニ在留本邦人側ニ於テハ現行土地法ノ苦痛ハ尚之ヲ忍ビ得ルモ是以上家族ノ呼寄ヲ制限セラルルコトハ忍ビ得ストナス者アリ在留民ノ多クハ時ノ經過ト共ニ土地法ハ米國出生兒ノ増加ニ從ヒ其効力次第ニ稀薄トナルヘキカ故ニ寧ロ可成長ク現状ノ儘ニ推移セシコトヲ希望スルモノノ如シ尤モ我方ニ於テ現状ヲ維持セントスルモ既ニ前期議會ニ提出セラレタル「ジョンソン」移民法案ハ近キ將來ニ於テ殆ント通過疑ナク同法案ニシテ通過スルニ至ラハ日本移民ハ殆ント絶対禁止ト同様ノ状態トナリ所謂虹蜂取ラスノ結果トナルヘキニ付寧ロ懇談会案ヲ採用シ既婚及婚姻婦人一万五千人ノ呼寄ヲ可能ナラシムル方得策ナリトノ議論モアルヘキ処一万五千人ノ婦人呼寄ヲ可能ナラシムル為ニ帝國政府從來ノ主張ヲ一擲シテ差別待遇ヲ承認スルコトハ大ニ考量ヲ要スル次第ニ付帝國政府トシテハ「ジョンソン」案ノ如キ移民法案カ通過ノ形勢アル場合ニハ從來ノ態度ヲ維持シ現行移民法制定當時ニ於ケルカ如ク極力之ヲ通過防止又ハ修正方ヲ國務省ニ要請シ度キ考ナリ然ルニ同法案ニ對シ徒ニ抗議ヲ提出スルモ効果疑ハシキ所別ニ本件懇談会ヨリモ今少シ有力ナル委員會ヲ組織シテ本問題ヲ研究セシムルコトトナスニ於テハ之ニ藉口シテ差別的移民法ノ通

シト決議セルカ帝國政府ハ國家ノ体面ト國民ノ自尊心トニ顧ミ斯ノ如キ條約ニ調印スルコトハ到底忍ビサル所ナリ

三、「マクラッチー」ハ米國々内法ニ依ルヘシト主張シ居レルモ斯ノ如キハ現行日米通商條約ノ明文ニ違反スルノミナラス帝國政府カ旧條約第二条末項ヲ削除セシメ且紳士協約締結以來忠實ニ之ヲ遵守シ米レル經緯ヲ全然無視スルモノニシテ國際信義ニ負キ日本ノ面目ヲ毀損スルコト甚シキモノナリ而シテ帝國政府ハ差別的待遇ニ對シ終始一貫之ヲ容認セサル態度ヲ保持シ米レルモノニシテ若シ差別的移民制限法ノ制定ヲ默過スルコトトセハ假令之ニ依リ土地法ノ廢止ヲ見ルコトアリトスルモ是一ノ差別待遇ヲ以テ他ノ差別待遇ニ換フルニ過キスシテ差別待遇撤廃ニ関シ多年固持シ米レル我主張カ一朝ニシテ破綻ヲ示スコトナルノミナラス一度米國々内法ヲ以テ自由ニ制限ヲ加ヘ得ル惡例ヲ開クニ於テハ將來如何ニ過酷ナル法律ヲ制定セラルルモ抗議ノ途ナク加奈陀其他諸國ノ差別法ニ對スル帝國政府ノ抗議モ之ヲ支持シ能ハサル破目ニ陥ルヘシ要スルニ國內法ニ依ル差別待遇ハ條約ニ依ルモノヨリモ一層我ニ取リ不利益ナルヲ以テ極力之ニ反對セサルヲ得ス

三、條約及米國々内法ヲ問題外トセハ結局紳士協約ニ依ルノ外ナキ処現行協約ハ秘密ニ付セラレ居ルカ為米國側ニ於テ反對多ク本邦側トシテモ誤解ヨリ生スル非難ノ為メ過ヲ防止シ得ル便宜アルニ付「シャレンバーグ」ニ對シテハ相當好意的態度ヲ示シ彼等ヲ利用シ前記委員會組織ニ尽力セシムル方得策ナラント思考セラルルヲ以テ同人ニ對シテハ懇談会ノ諸士カ日米ノ關係ヲ顧念シ問題ノ解決ニ尽力ヲ惜マレサル好意ト勞苦トヲ謝スルト同時ニ該決議事項ハ問題ノ解決ニ一歩ヲ進メタルモノト思ハルモ移民制限ノ形式ニ付尚ホ究ツテ要スルノミナラス差別待遇撤廃問題ニ付具體案ヲ提供セサルカ故ニ之ニ對シ直ニ賛否ノ意ヲ表シ難キモ該決議ヲ基礎トシテ更ニ協議ヲ進メンカ為別ニ日米間ニ相當委員會ヲ組織スルコト得策ト思考セラルル旨ヲ以テ可然応酬セラレタシ

尚ホ懇談会ニ提出セル「マクラッチー」ノ提案(大正十一年九月十二日付桑港來信機密公第三二二号)中日本人排斥ノ理由トシテ日本人ハ同化セサルコト及他人種ト結婚セサルコトヲ拳ケ居レルカ此点ハ其儘我方ノ容認シ難キ所ニシテ同化ノ点ニ付テモ我方トシテハ日本人ハ他人種ト異ナル所ナキヲ信ス又結婚ノ点ニ付テハ加州ニ於テ日白結婚ノ少ナキハ禁止ノ法律アルカ為ニシテ日本人カ之ヲ好マサルニ依ルニ非ス現ニ東部方面ニ於テ日白結婚相當多數ナル事實ハ之ヲ立証スヘシ故ニ此点ニ付「マクラッチー」論旨ノ誤ナルコトヲ序ノ節「シャレンバーグ」ニ指摘シ置カレタシ

一 米國ニ於ケル日本人移民排斥問題 八五 八六 八七

帰化不能ノ外国人移民禁止ノ決議案加州下院

ニ於テ日本人ノミ排斥ノ決議ニ修正ノ件

第一一三號

(五月一日接受)

往電第五七号ニ関シ

四月二十五日「サクラメント・ビー」ノ報スル所左ノ通
同決議案ハ上院ヲ通過シ二十四日下院委員会ニ付議セラレ
タルカ原案ハ帰化不能ノ外国人全般ニ対スル排斥決議案ナ
ルヲ修正シテ特ニ日本人ノミヲ排斥スルヲ趣旨トスル修正
動議成立直チニ特別委員会付託トナレリ右修正動議ニ対シ
Sharkey ハ右ハ寧ロ日本人ニ反抗運動ヲ起ス絶好ノ口実ヲ
与フルモノニシテ有効ナル排日運動ニ障碍ヲ来スヘシト敦
囑キ居レリ尚右修正動議成立ノ原因ハ一ハ支那側ノ下院委
員会ニ対スル運動ノ結果ナリト
在米大使ヘ転電シ羅府ヘ郵報ス

八五 四月二十九日

在桑港矢田総領事ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

埴原大使ハシャーレンバークト喜ンデ面談ス

ベキ旨同人ニ伝フル様大使ヨリ電報越ノ件

第一一四号

シャーレンバークハ今暫ク「ワシントン」行
キヲ延期スル旨申出ノ件

第二二四号

(五月十日接受)

本官発在米大使宛電報第九九号

貴電第八〇号ニ関シ

適當ノ機会ニ於テ御来示ノ趣旨ヲ「ガイ」ヲシテ「シャ」
ニ伝ヘシメタル処「シャ」ハ五月十七日頃閉会トナルベキ
州会ノ事務一段落トナラザレバ出発致シ難シ華府行ノ前ニ
今少シ布哇ノ事情ヲ知リタシ自分ノ旅費ハ排日協会若クハ
労働組合ヨリ支弁スベシ何レニセヨ華府行ノ時日確定ハ今
暫ク猶予セラレタシ云々ト語リタル由ナリ

八八 五月十五日

在桑港矢田総領事ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

帰化不能ノ日本人移民禁止決議案満場一致加

州下院ヲ通過ノ件

第一二九号

(五月十六日接受)

往電第一二二号ニ関シ

五月十五日 Examiner ノ報ズル所ニ依レバ同決議案ハ十四
日満場一致下院ヲ通過シタル由

一 米國ニ於ケル日本人移民排斥問題 八八 八九

九六

在米大使発本官宛第八〇号

外務大臣ヘ転電アリタシ

貴電第五七号ニ関シ

「シャーレンバーク」来京ノ節ハ喜ンテ面談スヘキニ付其
ノ旨同氏ヘ伝ヘラレタク尚当方ノ都合モアルニ付同人来京
ノ日時ハ成ルヘク一週間位前ニ御通報アリタク尚又貴電末
段「ガイ」同行ノ件ハ当方ニ於テ別ニ異存ナシ但シ費用ハ
貴官ニ於テ然ルヘク支出ノ途ヲ講セラレタシ

八六

在桑港矢田総領事ヨリ
内田外務大臣宛

帰化不能外国人移住禁止ノ決議案加州下院委

員会ヲ通過ノ件

第一二二号

(五月六日接受)

往電第一一三号ニ関シ

「エグザミナー」ニ依レハ同決議案ハ五月四日四對二ノ多
数ニテ下院委員会ヲ通過シタル由

大使ヘ転電シ羅府ヘ郵報セリ

八七

在桑港矢田総領事ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

大使ヘ電報シ羅府ヘ郵報ス

八九 五月二十六日

在米國埴原大使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

日本協会ニ於ケル埴原大使演説ニ関スル紐育

タイムズ評論及ビ三井無線問題ニ関スル華府

スターノ報道報告ノ件

第三三二号

(五月二十七日接受)

二十六日新聞報

一、二十六日紐育「タイムズ」ハ日本協会ニ於ケル埴原大
使ノ演説ヲ引キ日本人カ西部諸州ノ立法ヲ以テ人種上劣等
視セラルルカ如キ取扱ナリトシ其「ブライド」ヲ害セラル
ルモノトスルハ無理カラヌ次第ナルモ西部地方ニ於ケル日
本人ヘノ反感ハ人種問題ヨリモ寧ロ經濟上ノ問題ニシテ在
米日本労働者ノ生活条件ト労働時間ノ問題ナリ即チ生活費
低ク長時間ノ労働ヲ為ス日本人カ繁榮シ米人以上ニ活動ス
ルニ至ルハ懸テ米人ノ嫉視嫌惡ヲ免レサル所以ナリ今若シ
地位ヲ換ヘテ米國ノ百姓乃至職人カ多数日本ニ至リテ耕作
シ乃至職業ヲ求メントセンカ必スヤ日本人ハ加州ニ於ケル
米人ノ日本人ニ対スルト同一ノ感ヲ抱クナルヘシ現ニ日本

九七

一 米國ニ於ケル日本人移民排斥問題 九〇

ハ尚未タ外人ノ土地所有ヲ禁止シ居リ十四年以前ノ所有許可ノ法律モ今日尚実施ノ運ヒニ至ラサルニアラスヤ又日本大使ハ日本ハ米人ノ欲セサル米國ヘノ移民ヲ奨励スルノ意ナキコトヲ説ケルカ右ハ紳士協約ニ一致シ居ルモ更ニ同大使ハ今後更ニ移民ヲ送ルカ如キハ問題ニアラスト声明シタルカ右ハ大ニ謹聴ニ値ス蓋シ一九一〇年ニハ二万四千ナリシ在米日本人カ一九二〇年ニハ十一万一千ヲ算スルニ至ル如キ不斷ノ入國ニ依ル増加力中止セラルル迄ハ日本人ト土着ノ米國人トノ軋轢ハ已マサルヘケレハナリ從ッテ右日本ノ態度ハ米國人ノ須ク尊重スヘキ所タルト共ニ日本人モ米國ニ於ケル日本人ノ待遇ハ人種問題ニアラスシテ經濟問題タルコト及何等日本政府又ハ日本人民一般ニ對スルモノニアラサル真相ヲ諒解スルヲ要スト論ス

二、二十五日華府「スター」ハ三井無線問題ニ関シ日本ハ國際通信會議ノ決議ヲ引用シ独占ノ正當ヲ力説シ居ルモ該決議ニアル独占ハ外國ヨリ異議アル場合仲裁々判ニ依リ決定セラルヘキモノナル事項ヲ示サス米國政府ハ必要ナルニ於テハ之ヲ右裁決ニ付スルヲ辭セサルヘシ然レ共米國政府ノ論拠ハ通信會議ノ報告ヨリモ寧ロ九國條約、米支條約及

ル日本人口力過多ナル為ニ公立學校カ其負担ニ堪ヘサルヨリ起レルモノニシテ日本人ハ善良ナル市民ノ可能性ヲ有シ日本人ハ何等布哇島ヲ日本化スルノ共同的運動ヲ試ミ居ラス帰化不能ノ民族ハ是ヲ驅逐セサルヘカラサルモ既ニ合法ニ入國シタルモノニ對シテハ市民權ヲ賦与スルヲ可トスト云フニ在リ

(二)「ジョンソン」移民法案

「マックラッチー」カ「ジョンソン」トノ會談ニ依リテ得タル解釈ニ依レハ該法案ハ一八九〇年ノ人口統計ヲ基礎トシ各外國人ニ對シニ「パーセント」ト其ノ近親一「パーセント」ヲ入國許可數ト算定スルモノナルカ「マックラッチー」ノ考トシテハ「ジョンソン」法案カ帰化不能ノ民族ヲ排斥スル差別的條項ヲ設ケサル限り賛意ヲ表スル能ハスト述ヘタリ

「シャーレンベルク」ハ「マックラッチー」同様差別條項ノ挿入ヲ希望セルカ若シ右條項ノ挿入不可能ナル場合ハ強ヒテ是レヲ主張セス「ホースト」「グリアンス」「パースンス」ハ「ジョンソン」法案ニ對シ人種國籍ニ拘ラス各外國人ヲ均等ニ待遇スル限り滿腔ノ賛意ヲ表シタリ

一 米國ニ於ケル日本人移民排斥問題 九一

機會均等ニ關スル諸聲明ニアリト報ス

九八

九〇 六月十一日 在桑港大山總領事ヨリ
内田外務大臣宛

日米有志懇談會第十三回會合ニ於テ外國語學校問題並ニジョンソン移民法案等討論ノ件

機密公第三二一號 (七月十八日接受)

大正十二年六月十一日

在桑港

總領事 大山 卯次郎(印)

外務大臣伯爵 内田 康哉殿

第十三回日本人問題懇談會ニ關スル件

六月七日第十三回日本人問題懇談會開催セラレ McClatchey, Horst, Davis, Abiko, Gleason, Scharrenberg, Guy, Bishop, Parsons ノ外ニ新會員トシテ前布哇公立學校監督官ニシテ目下当地ニ在住ノ Vaghan MacCanghey ノ出席ヲ見タル由ナルカ議題ハ(一)布哇外國語學校問題(二)「ジョンソン」移民法案(三)加州外國語學校問題等ニテ

(一)布哇外國語學校ニ就テハ前頭 MacCanghey 意見ヲ述ハタルカ其要領ハ所謂布哇外國語學校問題ハ本來同地ニ於ケ

(二)「インマン」外國語學校法案

「マックラッチー」ノ報告ニ依レハ檢事總長「ウェップ」ハ此程「エクスクリュージョン・リーグ」ノ會員其他排日諸団体代表者ト會合シタルカ外國語教授ニ關スル今回ノ大審院判決ハ加州ニ於ケル現行外國語學校取締法及今回加州兩院ヲ通過シタル「インマン」法案ノ法律上ノ効力ニハ何等影響ナカルヘシト述ヘタル由

右御報告申進候 敬具

本信写送付先 在米大使 在羅府領事代理

九一 六月十五日 在桑港大山總領事ヨリ
内田外務大臣宛

第四十五加州議會ニ上程セラレタル主要排日

議案報告ノ件

公第二一九號 (七月十七日接受)

大正十二年六月十五日

在桑港

總領事 大山 卯次郎(印)

外務大臣伯爵 内田 康哉殿

加州議會第四十五議會會期中ニ上程セラレタル主要排日議

九九

案ニ関シテハ其都度及御報告置候処同議會ハ既報ノ通り客月十八日閉会致候ニ付此際右諸議案ノ經過並ニ現狀為御参考左ニ一括御報告申進候

上院議案第七号

上院議員「インマン」ノ提出ニカカリ「全部又ハ一部外國語ヲ以テ經營セラルル私立学校ノ取締並ニ廃止ヲ規定スル」法案（往電第一八号）ニシテ五月九日上院通過（往電第一二六号）五月十八日下院通過（往電第一三四号）シタルガ知事ノ署名未了ナリ

上院議案第六十四号

上院議員「インマン」ノ提出スル所ニシテ「米國ニ帰化不能又ハ帰化ノ意思表示ヲ為シ能ハサル者ニ對シ加州ノ領水ニ於テ漁獲ヲ禁止スル」法案（往電第二十四号）ニシテ四月三日上院ニ於テ否決トナリタリ

（往電第七十三号）

上院共同決議案第十三号

上院議員「シャークー」提出
「帰化不能ノ外國人ノ入國ヲ絶対禁止スル移民法」（往電第五十七号）ノ制定ヲ合衆國議會ニ對シ建議スル決議案

下院婦人議員「ウッドブリッジ」提出

一九二〇年土地法ヲ修正シ收穫契約ノ禁止ヲ規定スル法案（往電第一〇三号）ニシテ五月二日下院通過（往電第一一九号）五月十四日上院通過（往電第一三〇号）シタルカ知事ノ署名未了

下院議案第一三一九号

下院婦人議員「ウッドブリッジ」提出

帰化不能ノ外國人ハ不動産又ハ不動産上ノ權利ヲ内容トスル財産ニ関シテハ後見人ニ任命セラルルコトヲ得スト規定スル法案（往電第九二号）ニシテ四月二十七日下院通過（往電第一一五号）五月十四日上院通過（往電第一三〇号）五月三十一日知事ノ署名ヲ了シタリ（往電第一三八号）

下院共同決議案第八号

下院議員「クームス」提出

上院議案第一四号ト大同小異（往電第三〇号）ニシテ三月二十六日下院通過（往電第六四号）シタルモ上院委員會ニ於テ握リ潰シトナリタリ
以上

本信号送先 在米大使 羅府領事代理

ニシテ四月二十四日上院通過（往電第一一三号）五月十四日下院通過（往電第一二九号）知事署名未了

上院共同決議案第十四号

上院議員「シャークー」提出

「帰化不能ノ外國人ノ子ニ對シテハ帰化權ヲ付与セサル様合衆國憲法ヲ修正スルコト」ヲ合衆國議會ニ對シ建議スル決議案ニシテ兩院ヲ通過シタルカ知事ノ署名未了

上院議案第二〇〇号

上院議員「カー」提出

「カリフォルニア」大学ニ於テ帰化ノ意思表示ヲ為ササル外國人學生ニ對シ授業料ヲ徴収スルヤウ同大学現行授業料規定ヲ變更スル法案（六月十一日付公第二〇七号）ニシテ六月二日知事ノ署名ヲ了シタリ

下院議案第八二六号

下院議員「ドウソン」提出

上院議案第六十四号ト其ノ内容大同小異（往電第四十号）ノモノニシテ下院委員會ニ於テ未投票ノ儘握リ潰シトナリタリ

下院議案第一五九号

九二 六月二十七日

内田外務大臣ヨリ
在米大使在米各領事任カナダ各領事宛（各通）

在米日本人問題ニ関スル日米關係委員會ノス

テートメント及ビ波沢子爵ノ意見書送付ノ件

付屬書一 日米關係委員會ノ陳述書發表ノ由來

二 右陳述書

通移普通合第四〇八号

当地日米關係委員會ハ本月五日在米日本人問題ニ関スル一ノ「ステートメント」ヲ發表シ尚波沢子爵ニ於テモ同問題ニ関スル意見書ヲ日米兩國朝野ノ名士ニ送付シタル処右「ステートメント」及意見書ヲ發表スルニ至リタル経緯ニ付当方ヨリ同委員會ニ問合セタルニ其由來別紙ノ通ナル趣ニ有之候ニ付御参考迄ニ左記ノ通各一部及送付候也

一、日米關係委員會ノ陳述書發表ノ由來

一、日米關係委員會ノ陳述書

一、波沢子爵ノ意見書

以上

註 波沢子爵ノ意見書ヲ省略ス

（付屬書一）

日米關係委員會ノ陳述書發表ノ由來

大正九年三月東京ニ於ケル日米關係委員會ノ代表者ハ桑港米日關係委員會ヲ代表シテ来邦シタルアレキサンダー氏一行ト東京銀行俱樂部ニ会シ日米問題ニ関シテ意見ヲ交換シタル末同問題解決策トシテ日米連合高等委員ノ設置案ヲ可決セリ越エテ同年四月東京ノ同志協議ノ上米賓歡迎会ヲ設ケ米國東部ノ有志ヴァンダーリップ氏一行ヲ東京ニ招待シテ同問題ニ付キ熱心協議シタルガ等シク之ガ解決策トシテ連合高等委員ノ設置ヲ最モ適當ノ方法ナリト決議シタリ爾来右三者ノ代表者ハ各政府当局者ニ陳述シテ之カ實現ニ努ムル処アリシカ當時恰モ米國ニ於テハ大統領改選期ニ際シ又引統キ政變等ノ為メ進捗ヲ見ルニ至ラス統テ大正十年洪沢子爵一行渡米ノ際翌年一月桑港ニ於テ同地ノ米日關係委員ノ協議会開催セラレ其席上改メテ同委員會ヨリ兩國連合高等委員設置案ヲ提出シタルニ付東京ノ同委員會ヲ代表列席シタル洪沢等ハ之ニ賛同シ全員一致ヲ以テ同案ヲ可決シ再度兩会ノ代表者ハ各政府当局者ニ之カ意見ヲ開陳シタリ同十二年五月紐育ニ於ケル米日關係委員會幹事ギューリック博士ノ来邦ヲ機トシ更ニ同博士ト熱議ノ上今ヤ之カ意見ヲ日米兩國ニ発表シテ大ニ輿論ヲ喚起スルコト最モ必要ノ

決ノママ残存スルハ寒心ニ堪ヘズ於茲東京ノ日米關係委員會ハ華聖頓會議ノ結果兩國ノ關係ガ親善ニ赴キシ此機會ニ於テ左ノ陳述ヲ為シ以テ問題ノ根本的解決ニ資センコトヲ望ム

千九百二十一年夏ハーディング大統領ガ軍備縮小並ニ極東問題ニ関スル會議ヲ提議セラレシ際我國国民中ニハ米國ノ意図ヲ誤解シタルモノモアリシガ大多數ハ米國ガ正義人道ニ基キ世界永遠ノ平和ヲ切望スルノ誠意ヨリ出デタルノ拳ナルコトヲ信ジ此機會ニ於テ我國ハ虚心坦懷胸襟ヲ披キテ誠意ヲ明カニスベシト思惟シタリ本委員會亦一意此見解ヲ主張シタリ

吾人ハ日本政府ガ米國ノ招待ニ応ジタルヲ聞キテ衷心ヨリ歡喜シタリ統テ日本全權ガ政府ノ意見ヲ齎ラン會議ニ際シテ此ノ新紀元ヲ画スベキ事業ニツキテ米國ト和衷協同シ上述ノ結果ヲ得此ノ如クニシテ数十年間兩國ノ間ニ保タレタル平和ヲ尚確實ニシタリトノ吉報ニ接シ滿腔ノ慶賀ヲ表シタリ

同會議ニ際シテ日本ノ態度ガ公明正大ノ他ナカリシコトハ我が全權ノ行動能ク之ヲ証明シタリ世界平和ノ為ニハ日本

時機ナルベキヲ察シ茲ニステートメントヲ發表スルニ至リシモノナリ尚此機會ニ於テ洪沢子爵ヨリモステートメントニ関連シテ意見書ヲ米國ノ友人ニ發送スルコトニ決シ同時之ヲ發表シタリ

因ニ米國ニ於テステートメントヲ發送シタル先ハ邦人ニアリテハ大使館各地領事館及各地日本人会等(以上布哇ヲ含ム)ニシテ米人ニアリテハギューリック博士ノ婦米ニ託シ同國朝野ノ名士ニ頒布シ又郵便ヲ以テ桑港及紐育兩關係委員ヲ始メ有力ナル實業家政事家及新聞社等ニ送付シタリ而シテ洪沢子爵ノ意見書ハ主トシテ同氏ノ友人(實業政治家宗教家)宛送付シタリ

(付属書二)

陳述書

華聖頓ニ於ケル軍備縮小會議ハ日米關係ニ一轉機ヲ促シ兩國ノ空ニカカリシ暗雲ヲ一掃シ兩國国民不安ノ重荷ヲ除却シ以テ更ニ相互ノ親善ト信頼トヲ生ズル新紀元ヲ画スルニ至レリ是レ吾人ノ慶賀措カザル所ニシテ如此關係ノ永遠ニ持續センコトハ吾人ノ希望シテ止マザル所ナリ然ルニ兩國ノ國交ヲ脅威スル一問題ガ尚ホ依然トシテ未解

ハ列國ト協同スルニ吝ナラザル事証トシテ二三ノ事實ヲ示サンニ多年外交ノ楔子タリシ日英同盟ヲ廢棄センコトニ同意シ巴里平和會議ノ前後屢々聲明シタルニ違ハズ膠州灣ノ還付ニ同意シ多大ノ不便不利アルニ拘ラズ在支日本郵便局ノ撤廢ニ同意シタリ又支那ノ動搖無秩序ニ懸念シタルモ漢口駐屯兵ヲ撤去シ西伯利ノ不安未ダ去ラザルニ其出兵ヲ引揚ゲタリ更ニヤップ島ノ委任統治及其海底電線処分ニ就テモ多大ノ讓歩ヲナシテ米國ノ主張ヲ認諾シタリ加之日本ハ公平ト親善トノ精神ニ基キ海軍勢力ニ関スル將來ノ比率及太平洋諸島ノ防備制限等ニ関シテ華聖頓會議ノ決議ニ基キ断乎トシテ忠実ニ実行シツツアリ此ノ決議ニ對シテハ日本國民ノ一部ニハ寧ロ國家ノ体面ヲ毀損スルモノナリトシテ反對シタルモノアリシガ多數ハ日米兩國ノ親善ト人類ノ幸福トノ為メニ捧グベキ犠牲トシテ之ヲ賛成シタリ

日本國民ハ此ノ如ク協調ノ誠ヲ尽シタル以上米國モ亦此ニ応ジテ同様ノ協調ニ出デンコトヲ信ジ合法的ニ米國ニ居住スル日本移民ニ對スル差別待遇ノ不公平ヲ除キ以テ公平且親善ノ態度ニヨリテ本問題ヲ解決スルニ至ランコトヲ期待シタリ

米國大陸ニ居住スル日本人ノ總數ハ十一万五千人ニ過ギズ而モ中三万ハ米國ニ於テ出生シ随ツテ米國ノ国籍ヲ有スル者ナリ然ルニ米國人ノ此等居住民ニ對スル待遇ガ不当ナルニツレテ益兩國ノ親善ヲ傷ケ延イテ兩國ノ国交ヲ危クスルノ虞ナシトセズ元來日本移民ノ米國ニ入リシハ米國ガ支那人排斥法ヲ設ケ西部ニ於ケル支那人労働者ヲ驅逐シタル結果労働ノ不足ヲ補ハンガ為メニ米國資本家ガ日本労働者ヲ誘致シタルニ始マレリ而シテ日本移民ハ勤勉努力以テ農業及其他ノ生産ニ従事シ此ニ依リテ米國西部ノ開発ニ貢獻シタル所尠シトセズ

在米日本人ハ勤勉誠実ニシテ且法律ニ忠順ナルニ拘ラズ西部ニ於ケル米國人ハ彼等ノ土地所有權及借地權ヲ奪ヒ種々ノ方法ニ依リテ其結婚ヲ不便ニシ進ンデハ日本語學校ノ閉鎖ヲ企ツルモノアリ米國ノ現行法律ハ十分資質ヲ具ヘタル日本人ニ對シテモ人種相違ノ故ヲ以テ帰化權ヲ与ヘザルノミナラズ或ル一派ノ米人ハ單獨ニ其立法ヲ以テ紳士協約ヲ破棄セントシ又米國ニ於テ出生シタル日本人ニ對シテ憲法ガ付与シタル市民權ヲモ剝奪セント企図セリ此ノ如キ現状其他画策運動等ハ適法ニ米國ニ入国シテ永ク

問題ヲ完全ニ解決センコトヲ希望シ本問題ニ関シテ焦慮セラルル兩國ノ有力者諸氏ノ考慮ヲ煩ハサンガ為ニ左ノ提議ヲ為ス

在米日本人待遇問題ヲ考究スル為ニ日米兩國政府ハ若干名ノ代表者ヲ任命シテ連合高等委員會ヲ組織スベシ

該委員會ノ任務ハ本問題ニ関シテ慎重審議互ニ腹藏無キ意見ヲ交換シ兩國ノ間ニ存スル誤解ト不一致トノ真原因ヲ探究シ問題全体ニ亘リテ根本的且永久的解決策ヲ考究シ兩國政府並ニ広ク兩國ノ國民ニ向ツテ其結果ヲ報告スルト共ニ對策案ヲ提出スルニアリ

本會ハ在米日本人問題ノ解決ハ今日ヲ以テ最モ適當ノ時機ナリト確信ス本會ハ該問題ヲ根本的ニ解決シ以テ日米兩國民ニ満足ヲ与ヘ斯クテ將來兩國ガ相提携シテ太平洋ノ平和進ンデハ世界永遠ノ平和確保ノ為ニ協心戮力スルニ至ランコトヲ切望シテ止マザルナリ

大正十二年六月五日

東京日米關係委員會

註 英文ノ陳述書ヲ省略ス

其國ニ居住スル日本人ニ對シテ他ノ諸外國人ガ享有スル私權及經濟上ノ便益ヲ褫奪スルモノナリ此等ハ実ニ日本人ニ取リテ苦痛ナルノミナラズ又不公平且侮辱的処置ニシテ米國ノ理想及慣例ニ背馳スルモノナリト考ヘラルルハ至當ノ事ナリ且此等ノ方法ハ人種差別ヲ以テ日本人ニ屈辱ヲ与フルモノニシテ國際諸條約ノ基本タル國際的好意礼讓ニ背キ今後幾十年ニ亘リテ維持セラルベキ正当ナル國際關係ノ依ツテ以テ立ツ所以ノ根本原則ヲ覆スモノト云フベシ本會ハ日米問題ニ関シテ年來研究ヲ重ネ來リ此ノ問題ニ関シテ種々ノ意見並ニ論議ノ諸方面ニ存在スルヲ熟知セリサレバ上記ノ陳述ハ問題全般ニ亘リテ詳細ヲ尽シタルモノニアラズシテ只我國民ノ深ク心ニ感ズル所ノ幾分ヲ表明シタルニ過ギザルナリ

本問題ニ付テ本會ハ桑港ニ於ケル米日關係委員ト屢々協議ヲ重ネ又兩國ノ有力者諸氏ト意見ノ交換ヲ行ヒシガ此等協議ノ結果兩國ノ經濟人種並ニ政治ニ関スル複雑ナル衝突並ニ危險ガ少ナカラズ其間ニ伏在スルニ鑑ミ且ツ華聖頓會議ガ困難ナル國際問題ヲ解決スルニ付テ与ヘタル教訓ニ則リ本會ハ將來日米兩國ノ關係ヲ攪乱スルノ虞アル未解決ノ本

九三 八月一日

在桑港大山總領事ヨリ
内田外務大臣宛

佐藤市造ノ戰時帰化權ニ對スル加州大審院ノ

無効判決ニ関シ報告ノ件

公第二九七号

(十月九日接受)

大正十二年八月一日

在桑港

總領事 大山 卯次郎 (印)

外務大臣伯爵 内田 康哉殿

予テ加州大審院ニ於テ繫属中ナリシ佐藤市造ノ戰時帰化權訴訟ハ七月二十六日付ヲ以テ無効ノ判決アリタルカ本件訴訟ノ事実及判決要旨左ノ通ニ有之候

一、本件訴訟ノ顛末

原告ハ歐洲戰爭中米國ノ軍隊ニ從軍シタル理由ニヨリ一九一九年七月二十一日「ハワイ」合衆國地方裁判所ヨリ戰時帰化法ニ拠リ帰化証ヲ得タルヲ以テ是ヲ「サクラメント」郡登記所ニ提示シ其ノ選舉人名簿ニ登録方ヲ請願シタルカ右登記所ニ於テハ同人カ市民權ヲ許与セラレサル日本人ナラヲ以テ右請願ヲ拒否シタリ然ル処原告ハ登記所側ノ処置

ヲ不当ナリトシ一件ヲ「サクラメント」高等法院ニ出訴シタルカ該高等法院ハ原告側ニ對シ敗訴ノ判決ヲ与ヘタルヲ以テ原告側ハ更ニ加州控訴院ニ對シ上告シタル処前判決ノ確認判決ニ接シタルニ依リ原告ハ更ニ加州大審院ニ上告シタル次第ナリ

二、原告側ノ主張ニ對スル大審院ノ反駁

(一)原告側ハ原告ノ帰化權ハ合法ノ裁判所ヨリ合法ニ付与セラレタルモノナルヲ以テ此ノ帰化權ノ取得ニ依リ当然發生シタル選舉權ハ登記所ニ於テ此ヲ拒否スルコトヲ得スト主張スルモ該帰化証ハ其ノ証書面ニ於テ帰化人カ黃色人種ニシテ日本人タルコトヲ記載シアリ而シテ黃色人種ハ後記ノ如ク合衆國ノ帰化法ニ依リ帰化不能ノ人種ナルヲ以テ右合衆國帰化法ニ反シテ布哇合衆國地方裁判所カ原告ニ与ヘタル帰化判決ハ無効ナリ故ニ其ノ無効ナル帰化証ハ有効ナル帰化証ノ從屬的効力タル選舉權ヲ發生セス即チ登記所書記ノ処置ハ合法ナリ

(二)原告側ハ合衆國裁判所ハ州裁判所ノ判決ヲ無効ナラシムルコトヲ得後者ハ前者ノ判決ヲ覆スコトヲ得スト主張スルモ帰化訴訟ニ關スル司法權ハ合衆國裁判所及ヒ州裁判

所カ同等ニ國家ヨリ付与セラレタルモノニシテ何レノ裁判所モ同等ノ効力ヲ以テ帰化証ノ付与及無効ノ判決ヲ為スコトヲ得

(三)原告側ノ「一九一八年五月九日ノ戰時帰化令第七条但書ニ所謂「外国人」トハ合衆國改正法律第二一六九条ニ規定スル帰化不能ノ外国人ヲモ包含ス」トノ解釈ニ對シテハ本大審院ハ是レヲ承認スルコトヲ得ス

右「外国人」ナル語ハ單一八九一八年ノ戰時帰化法ニ限ラス一八六二年及一八九四年ノ戰時帰化法ニモ用ヒラレタル所ナルカ何レノ場合ニ於テモ其ノ「外国人」ナル語ノ包含スル範圍ハ改正法律第二一六九条ニ規定セラレタル帰化可能ノ外国人ノミニ限定セラレタルモノニシテ一九〇六年ノ別所事件一九〇八年ノ熊谷事件等ノ判決例ハ即チ是ヲ証ス

尚委細ハ別添判決文ニ依リ御了承相成度此段申進候 敬具

本信写送付先 在米大使 ホノルル総領事 羅府領事
シアトル領事 ポートランド領事 バンクーバー領事
註 添付ノ判決文ヲ省略ス

九四 十月十七日

在桑港大山總領事ヨリ
伊集院外務大臣宛(電報)

「アメリカン・リージョン」大会ニ於テ労働

大臣東洋人移民制限論演説ノ件

第二〇四号

(十月十九日接受)

十月十五日カラ当地デ全米「アメリカン・リジョン」大会開カレ出席者十萬ト報ゼラル同日労働大臣「ネヴィス」ハ移民問題ニ就キ雜誌 Forum 九月号所載同大臣ノ移民論ト同様 selective immigration ヲ主張シ特ニ東洋人移民ノ無制限入國ハ断ジテ不可ト説キ之等移民ノ歡迎スル一般ノモノヲ非難シ同移民ノ入國ヲ loophole 多キ現行法デ取締ルコトハ甚ダ危險デアルカラ来年七月同法ノ効力満期ヲ待チ更ニ厳シク改正スル必要アリト述べタ

在米大使ヘ電報セリ

九五 十月十九日

在桑港大山總領事ヨリ
伊集院外務大臣宛(電報)

「アメリカン・リージョン」大会ニ於ケル移

民問題決議報告ノ件

第二一〇号

(十月二十一日接受)

一 米國ニ於ケル日本人移民排斥問題 九四 九五 九六

往電第二〇四号ニ關シ

十月十八日「アメリカン・リージョン」大会ニテ移民問題

ニ付要領左ノ通決議セリ

一、移民政策ノ根本方針トシテ「セレクトチヴ、メソッド」ヲ採用スルコト

二、市民權無キ外国人ノ入國ヲ禁止スルコト

三、五ヶ年間移民ノ入國ヲ禁止スルコト

四、毎年外国人ノ在留登録ヲ為スコト

五、入國資格ノ標準ヲ引上グルコト

六、移民法及其施行手続ヲ簡易有効ニスルコト

尚露國勞農政府不承認ノ旨決議ス

在米大使ヘ電報セリ

九六 十月二十六日

在桑港大山總領事ヨリ
伊集院外務大臣宛

桑港ニ於ケル排日諸団体ノ東洋人排斥決議ニ

關スル件

公第四〇〇号

(十二月八日接受)

大正十二年十月二十六日

在桑港

一 米國ニ於ケル日本人移民排斥問題 九七 九八

總領事 大山 卯次郎 (印)

外務大臣男爵 伊集院 彦吉殿

十月二十六日「エグザミナー」ノ報告ニ依レバ此程当地「アメリカン・リヂェン」本部ニテ同団体其他 National Farmers' Grange, The American Federation of Labour, The Native Sons and Daughters of the Golden West 等ノ各団体代表者相寄り帰化不能ノ外国人ノ排斥ヲ規定スル「ジョンソン」移民法案ヲ來議會ニ上程通過セシムルコトニ努力スルコトヲ決議シ尚列席中ノ加州選出合衆國下院議員數名ニ對シ右決議趣旨ニヨリ議會ニテ努力スルヤウ要求シタトノ趣ニ有之候 敬具

右新聞切抜御參考ノ為送付ス

本信写送付先 在米大使

註 新聞切抜省略ス

九七 十一月十三日 在桑港大山總領事ヨリ
伊集院外務大臣宛

土地業者大会ニ於ケルフイーランノ排日演說

報告ノ件

公第四二九号 (十二月十七日接受)

一〇八

大正十二年十一月十三日

在桑港

總領事 大山 卯次郎 (印)

外務大臣男爵 伊集院 彦吉殿

十一月八日当地ニ於テ開催セラレタル土地業者大会ニ於テ前加州選出合衆國上院議員「フイーラン」ノ演說アリタルカ右演說中同人ハ日本移民ヲ以テ有害無益ナリトシ其ノ加州ノ富ノ増殖ニ何等寄与スル所ナク努力ノ結果ヲ挙げテ本國ニ送致シ就中日系米人ノ如キハ二重国籍ヲ惡用シ米國ノ保護ノ下ニ在スル所謂外國語學校ニ於テ帝國主義ヲ習得スルモノナリ吾人ハ是等好マシカラサル人種ノ入國ノ絶對禁止ニ折角努力中ナリト論シ居リ候間右新聞記事相添此段及御報告候 敬具

本信写送先 在米大使 芝崎羅府領事代理

註 添付ノ新聞切抜ヲ省略ス

九八 十一月二十七日 在紐育姉齒總領事代理ヨリ
伊集院外務大臣宛

米國及ビカナダ在留同胞代表者會提出ノ日米

通商航海條約改訂方ニ關スル請願書ノ件

付屬書 十一月二十七日在紐育姉齒總領事代理ヨリ在米

國垣原大使宛機密第四七号写

機密第六一号 (十二月二十五日接受)

大正十二年十一月二十七日

在紐育

總領事代理副領事 姉齒 準平 (印)

外務大臣男爵 伊集院 彦吉殿

在米大使宛機密公信写送付

(付屬書)

機密第四七号

大正十二年十一月二十七日

在紐育

總領事代理副領事 姉齒 準平

在米

特命全權大使 垣原 正直殿

米國及加奈陀在留同胞代表者會提出請願書ニ關ス

ル件

本年七月十二日「シアトル」ニ於テ米及加奈陀在留同胞代表者會開催ノ次第ハ曩ニ外務大臣宛拙電第九八号ヲ以テ及

一 米國ニ於ケル日本人移民排斥問題 九八

報告置タル処今般右代表者會ニ於テ決議セル日米通商航海條約ノ改訂方ニ關スル請願書当地日本人會ヨリ閣下迄提出スル事ト相成タル趣ニテ來ル三十日頃同會々員一、兩名華府ニ赴ク由ニ候条此段前以テ御參考迄右決議文写相添へ及報告候 敬具

本信写送付先 外務大臣

決議一

大正十二年七月十二日北米合衆國華盛頓州「シアトル」市ニ於テ開催シタル米國及加奈陀在留同胞代表者會ハ我が帝國政府ガ現行日米通商航海條約ヲ改訂スルニ當リ北米合衆國人民ニ對シテハ恰モ英仏両國民ノ場合ニ於ケルガ如ク財産及一般營業ニ關スル權利ハ均等ノ待遇ヲ与へ我が在留邦人ノ財産及一般營業ニ關スル權利モ又米國ニ在留スル他ノ一般外國人ト均等ニ之ヲ享有スベキ最惠國條款ヲ明確ニ規定シ日米兩國ノ國交ヲシテ益々親善ナラシメ延イテハ其ノ貿易關係ヲ増進スルノ途ヲ講ゼン事ヲ主張シ出來得ル限リ速ニ之ガ實現ヲ期ス

決議二

米國ニ於テ出生シタル故ヲ以テ二重国籍ヲ有スル者又ハ日

一〇九

本ノ国籍ヲ離脱シテ米國ノ国籍ヲ取得シタル者ガ婚姻、子女ノ出生、財産相続又ハ離婚等ノ事故發生シタル時ハ其身分及財産ニ関スル行為ハ総ベテ其ノ居住國ノ法律ニ拘束セラルルヲ以テ將來障礙發生ノ虞アリ依テ我が帝國政府ハ国籍ニ関スル條約ヲ締結シテ之ガ協定ヲ計ラム事ヲ望ム

九九 十二月六日 在ホノルル山崎總領事ヨリ
伊集院外務大臣宛

戰時帰化法ニ依リ獲得セル米國市民権効力ノ

論議ニ関シ報告ノ件

公機密第六二号

(十二月二十二日接受)

大正十二年十二月六日

在ホノルル

總領事 山崎 馨(印)

外務大臣男爵 伊集院 彦吉殿

一九一九年制定セラレタル戰時帰化法ニ依リ米國ニ帰化シ米國市民権ヲ獲得セシ日本人ハ三百六十六人ニシテ小沢ノ帰化判決ニ依リ此等帰化日本人ガ何等實際の影響ヲ蒙ラザリシ次第本年一月二十四日付機密公第七号拙信末段第三項ヲ以テ及報告候処今般布哇県公立学校ノ教職ニアル比律

賓婦人 Sistan Castro ナル者ニ対スル俸給支払ノ可否ニ関シ県會計検査官ガ県検事総長ノ意見ヲ求メタルニ対シ検事総長ハ比律賓人ハ米國海軍軍務ニ服シタル者ノ外仮令陸軍軍務ニ服シタル者ト雖モ米國市民タルヲ得ズ比律賓生レノ Sistan Castro ハ米國人ノ養女トナリシモ米國人ノ養女トナリシコトハ市民権ヲ獲得スル理由トナラズ布哇県ノ法律ハ県公立学校ノ教員ハ米國市民タルヲ要件トスルヲ以テ Sistan Castro ニ俸給ヲ支払フハ不可ナリト回答シタルヲ以テ會計検査官ハ同女ニ対シ俸給支払ヲ拒絕セシ趣ナリ尚県検事総長ハ戰時帰化法ニ依リ帰化セシ日本人ノ市民権ニ言及シ日本生レ日本人ハ仮令大戦中米國軍務ニ服シタリト雖モ米國市民権ヲ獲得スルヲ得ズトノ意見ヲ發表(別紙第一号)シタルガ朝刊「アドバタイザー」紙社長「ローリン・エー・サーストン」氏ハ検事総長ハ徒ニ法律ヲ狹義ニ解釈シ人ハ自由ニ平等ニ創造セラレタリト云フ米國ノ基礎的精神ヲ無視スル者ナリ日本人ガ大戦中自發の行動ニ依リテ米國軍務ニ服シ米國法廷ハ此等日本人ニ忠誠ヲ誓ハシメ市民権ヲ賦与シタルモノニシテ其賦与ニ依リテ未ダ嘗テ何等弊害ノ認めベキモノナキニ拘ラズ彼等ノ市民権ヲ剝奪セ

問題ヨリ戰時帰化法ニ依ル日本人ノ市民権獲得ノ効力ニ言及シ昨今新聞紙上論議セラレツツアル次第ナルガ本件市民権問題ハ目下華盛頓大審院ニ係争中(佐藤市造事件及豊田秀光事件)ナル趣ヲ以テ同大審院ノ判決アル迄ハ当地ニ於テハ之レガ為差当リ別ニ大ナル影響ヲ及ボスガ如キ實際問題ハ發生セザルベク思考セラルルモ本事件ニ関シ検事総長及其他有力者ノ意見ヲ了知シ得ベキヲ以テ別紙新聞切抜キ添付此段及報告候 敬具
本信写送付先

在米大使

註 別紙第一号乃至第八号省略

一〇〇 十二月二十六日 在シカゴ吉田領事ヨリ
伊集院外務大臣宛(電報)

トリビューン紙掲載ノ合衆國ト日本ト題セル

論説概報ノ件

第七二号 (十二月二十八日接受)

今二十六日 Tribune ハ合衆國ト日本ト題シ長文ノ論説ヲ掲ケタルカ其要点左ノ如シ

日本人入米制限ノ報日本ニ達スル毎ニ日本ハ憤ヲ發スルモ

一 米國ニ於ケル日本人移民排斥問題 一〇〇

吾人ハ其結果如何ニ拘ラス國家ノ幸福存立發展ヲ保護セサルヘカラス日本モ同様ノ必要ヨリ自ラヲ保護ス可ク而モ其ハ更ニ敏活ナル決斷ト行動ヲ以テ為サレ居ル現状ナルカ日本人カ米國カ自分等ニ輕侮ヲ加ヘタリト考フル時ハ勢ヒ激セサルヲ得サル可シ兩國ハ互ニ爭鬭回避ノ為其禍根除去ニ努メ吾人モ其禍根ハ除キ得ヘキモノナルヘシト信シ幾多ノ努力ヲ為シ来レリ兩國ノ競争ハ禍ヲ招キ兩國カ競争ヲ避クル限リ平和ハ維持セラル可シ米國カ亜細亞ニ足場ヲ有スル代リ若シ日本カ米國方面ニ何等根拠ヲ得タランニハ即チ假ニ日本カ墨西哥ヨリ「マグダレナ」島ヲ得タランニハ夫ハ戦争ナル帰結ニ到達スルハ当然ナリ之レ即チ米國上院カ墨西哥沖ニ於ケル日本漁業カ帝國主義的色彩アリト決議シタル所以ナリ（不明）ナル人々ハ兩國間ノ禍根ハ此ノ点ニ存スル事ヲ知レリ吾人ハ比律賓ヲ領有スルハ極東ニ於ケル貿易ヲ一層有利ナラシメントシタルモノナルカ同島政界ハ頻ニ独立ヲ希望シ居レリ比律賓ハ米西兩國間危機ニ迫レル際ニ独立シタルヤモ知レス或ハ独逸ニ領有セラレ其後世界大戰ニ際シ日本ニ併セラレタルヤモ計ラレサルナリ独立カ彼等ニトリ幸ヒナルヤ否ヤハ吾人ノ知ル所ニ非サレトモ彼等

一一二

ハ独立ノ約束ヲ得タルナリ恐ラク同島ノタメ日本ハ戦争ヲスルカ如キ行為ヲ執ラサルヘク若シ日米開戦ノ際ニハ更ニ性根深キ事由ヲ有スヘキモノナランモ独立ヲ口実トスル事ハアリ得ヘク又同地カ戦場タルヘキハ必定ナリ日本カ自衛ノ為汲々トシテ遂ニ疲弊スルヲ以テ「ガム」島ニ完全ナル防備ヲ施セハ米國ノ亜細亞ニ於ケル地位ハ安全ナルヘク之レ一見理想的行動ナラサルカ如クナルモ疲弊ヲ利用スル事コソ米國ノ極東ニ於ケル地位ヲ保持シ得ル唯一ノ途ナリ「アラスカ」布哇等ノ防備説ヲ称フル者アルモ布哇ハ米國ニトリ守ルニ易ク日本ハ攻ムルニ難キ土地ナリ吾人ノ要スル所ハ比律賓ニアラスシテ英領西印度ナリ比律賓人ノ運動ハ深ク意トセサルモ墨西哥人ノ騷擾ハ（不明）所ナリ吾人ハ比律賓ハ現ニ領有スルカ故ニ之ヲ幫助セサル可カラス南方ニハ策ノ施シ様ナキヲ以テ我地位ヲ發展セシムル事能ハストナセルハ我國民ノ情性最モ良ク顯ハセルモノナリ云々在米大使ヘ転電セリ

事項二 カナダニ於ケル日本人移民排斥問題

一〇一 二月九日

在オタワ太田總領事ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

ニイル議員移民法改正案ヲカナダ議會ニ提出
ノ件

第九号

（二月十一日接受）

B・C州出身下院議員 Neill ハ六日移民法改正案ヲ提出シ第一議會ヲ通過シタリ該案ハ前会期ニ提出サレタルモ閉會間際ニテ討議ノ余日ナカリシ為メ改メテ本議會ニ提出シタルモノニシテ客年往電第三〇号並ニ同年六月一日付機密公第二二号ト同一ナリ

註 第三七号ノ誤リ、同電ハ左ノ如シ

「第三七号

（大正十一年五月三十一日接受）

B・C州選出下院議員 Neill ハ五月二十九日英國生レノ移民以外ハ其本國出發ニ先立チ予メ加奈陀官憲ニ向テ國籍年齡生活方便並健康狀態ヲ並記セル入國願書ヲ提出シ其許可ニ接シタル上ニテ本國ヲ出發セシメントスル移民法案ヲ提出シ其説明ニ於テ該法案ニハ特ニ東洋又ハ日本人若クハ排斥ト言フ如キ条項無キモ事實ニ於テ是等移民排斥ノ結果ヲ得ルモノナリト説明シ第一議會ヲ通過セリ」

一一 カナダニ於ケル日本人移民排斥問題 一〇一

（参考）

ニイル移民法改正法案（大正十一年六月一日付機密公第二二号）

Canada Immigration Bill, introduced by Neill

An Act respecting Immigration.

His Majesty, by and with the advice and consent of the Senate and House of Commons of Canada, enacts as follows:—

1. In this Act and in all orders in council and regulations made hereunder, unless the context otherwise requires:—

(a) "Minister" means the Minister who is charged with the administration of *The Immigration Act*, chapter twenty-seven of the statutes of 1910;

(b) "officer" means an officer as defined in *The Immigration Act*.

2. (1) No person other than a person of British

一一三